内ニ認許證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　外國貿易船船用品ヲ積入レントスルトキハ船長ハ稅關、稅關ノ設置ナキ地ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏在ラサルトキハ警察官吏ニ申告スヘシ

第二十二條　稅關官吏職務ノ爲船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二十三條　本法ニ於テ外國貿易船ト稱スルハ外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶ヲ謂フ

第三章　貨物

第一節　總則

第二十四條　貨物ハ開港ニ由ルノ外輸出若ハ輸入ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ニ揭クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　遭難船舶ノ修繕救援若ハ救助ノ費用其ノ他航海ヲ繼續スルニ必要ナル費用ヲ支辨スル爲貨物ヲ賣却スルトキ

二　遭難船舶ニ積載セル損傷貨物若ハ腐敗シ易キ貨物ヲ讓渡スルトキ

三　遭難船舶若ハ難破貨物ヲ輸入スルトキ

四　遭難船舶ヨリ上陸シタル旅客ノ携帶品ヲ輸入スルトキ

第二十五條　貨物ノ檢査ヲ開始シタル後ハ貨物ニ關スル申告書ノ訂正補足ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條　日沒ヨリ日出迄ノ間及稅關ノ休日ニハ稅關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取送致ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ノ携帶品ハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條　稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ノ取扱ハ總テ稅關長ノ指揮ニ從フヘシ

第二十八條　貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ハ稅關長ノ特許ヲ得タル場合ノ外稅關ニ於テ定メタル場所ニ由ルヘシ

第二十九條　輸出シタル貨物ハ外國貨物トシ輸入シタル貨物ハ內國貨物トス

第三十條　貨物ニ關スル本法ノ規定ハ船用品ニ之ヲ適用セス

第二節　輸出輸入及積戾

第三十一條　貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲サントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ其ノ免許ヲ受クヘシ但シ第二十四條但書ノ場合ニ於テハ稅關官吏、稅關官吏現場ニ在ラサルトキハ收稅官吏ニ申告シ其ノ檢査及免許ヲ受クルコトヲ得

第三十二條　輸入申告書ニハ仕入書ヲ添付スヘシ但シ當該官吏ニ於テ仕入書ヲ添付スルコト能ハサル理由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ノ外輸入申告書ニ仕入書ヲ添付セサルトキハ稅關ノ賦課ニ關シ異議ヲ申立テ若ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得ス

第三十三條　通過ノ爲貨物ノ輸入ヲ爲サントスルトキハ之ヲ輸出スヘキ地ヲ異ニスル毎ニ其ノ目錄ヲ提出スヘシ

第三十四條　輸入貨物ハ免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ引取リ若ハ通過ノ爲發送スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ認許ヲ得稅金ノ擔保トシテ金錢ヲ提供シタルトキハ輸入貨物ノ引取ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　通過ノ爲輸入シタル貨物ノ運送ハ關稅通路ニ由ルヘシ關稅通路ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　運送人ハ通過貨物ニ關シ職務ヲ執行スル官吏ニ對シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第三十七條　輸出貨物ハ輸出免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第三十八條　外國貨物ノ積戻ニハ總テ輸出ニ關スル規定ヲ準用ス但シ假ニ陸揚シタル貨物ノ積戻ハ此ノ限ニ在ラス

第三節　回漕

第三十九條　內外國貨物ヲ外國貿易船ニ又ハ外國貨物ヲ沿海通航船ニ積載シ開港間ニ回漕セントスル者ハ稅關ニ申告シ貨物ノ檢査ヲ經テ回漕免許ヲ受ケヘシ

第四十條　前條ノ回漕貨物ハ回漕免許ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四十一條　第三十九條ノ回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ貨物ノ檢査ヲ受クヘシ

第四節　郵便物

第四十二條　郵便物中關稅ヲ課スヘキ物品アルトキハ稅關ハ其ノ稅金額ヲ郵便局ヘ通知スヘシ

第四十三條　關稅ヲ課スヘキ郵便物ヲ受取ラントスル者ハ郵便局ニ申出テ其ノ關稅ヲ納付スヘシ

前項ノ關稅ハ印紙ヲ以テ納付スヘシ

第四十四條　郵便物ノ關稅ハ郵便物ヲ名宛人ニ交付スル場合ノ外之ヲ課セス

第四十五條　第一條第二項但書第二十四條第二十六條第三十一條乃至第三十五條及第三十七條乃至第四十一條ノ規定ハ郵便物ニ之ヲ適用セス

第五節　收容

第四十六條　船積ノ爲稅關ニ送致シ若ハ陸揚シタル貨物ハ其ノ送致若ハ陸揚ノ時ヨリ七十二時以內ニ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ之ヲ收容スルコトヲ得

第四十七條　貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條　貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第四十九條　前條ノ免許ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以內ニ貨物ノ引取、船積、發送又ハ保稅倉庫ニ庫入ヲ爲ササルトキハ前條ノ申告及免許ハ無效トス

第五十條　貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號種類箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ競賣ニ付シ關稅敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ供託スヘシ

第五十一條　收容貨物腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ競賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條　收容貨物ヲ競賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

第四章　稅關官吏ノ職權

第五十三條　稅關長ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ船車ノ出發ヲ差止メ又ハ進行ヲ停止スルコトヲ得

第五十四條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ船舶若ハ貨物ニ關スル書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第五十五條　稅關長ハ運送貨物ニ對シ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十六條　稅關長ハ必要ト認ムルトキハ輸出入貨物ノ見本ヲ納付セシムルコトヲ得

第五十七條　稅關官吏ハ船車ニ乘込ミ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　稅關官吏ハ必要ト認ムルトキハ貨物ヲ檢査若ハ封鎖シ又ハ船車倉庫其ノ他貨物ノ藏置場ヲ封鎖スルコトヲ得

第五十九條　稅關長ハ職權ノ執行ニ必要ト認ムルトキハ海軍ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　前條ノ請求アリタルトキハ海軍鑑船長ハ船舶ニ對シ進行停止ノ命令ヲ爲スコトヲ得

前項ノ命令ヲ受クタル船舶進行ヲ停止セサルトキハ海軍鑑船長ハ其ノ船舶ニ對シ兵力ヲ用ウルコトヲ得

第五章　異議及訴願

第六十一條　關稅ノ賦課ニ關スル稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ文書ヲ以テ稅關長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得但シ貨物ヲ引取リタル後ハ此ノ限ニ在ラス

第六十二條　前條ノ規定ニ依リ異議ノ申立アリタルトキハ稅關長ハ文書ヲ以テ之ヲ判定シ異議申立人ニ之ヲ交付スヘシ但シ第六十三條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六十三條　從價稅ヲ課スヘキ貨物ノ課稅價格ニ關スル異議ヲ不當ト認ムルトキハ稅關長ハ申告價格ニ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル價格ヲ以テ其ノ貨物ヲ買上ルカ若ハ評價人ヲシテ評價セシムヘシ

評價人ノ評價額一致セサルトキハ其ノ平均ヲ以テ評價格トス

第六十四條　評價人ハ四人トシ二人ハ稅關長之ヲ命シ二人ハ異議者之ヲ選定ス但シ左ニ揭クル者ハ評價人タルコトヲ得ス

一　身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者

二　第七十四條乃至第七十六條ノ處罰ヲ受ケ滿三年ヲ經過セサル者

三　剝奪公權者及停止公權者

四　當該事件ニ利害ノ關係ヲ有スル者

異議者ニ於テ評價人ヲ選定シタルトキハ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條　評價人ヲシテ評價セシメタルトキハ其ノ評價々格ヲ以テ課稅價格トス但シ評價々格申告價格ヨリ少ナキトキハ申告價格ヲ以テ課稅價格トス

第六十六條　異議者ノ選定シタル評價人ニ關スル費用ハ異議者ノ負擔トス

第六十七條　異議ノ申立ハ處分ノ執行ヲ停止セス但シ稅關長ハ必要ト認ムルトキハ其ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第六十八條　稅關長ノ處分ニ對シ不服アル者ハ大藏大臣ニ訴願スルコトヲ得

第六十九條　訴願ヲ審査セシムル爲委員會ヲ設ク

第七十條　委員會ハ委員過半數出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第七十一條　委員ハ自己ノ利害ニ關スル議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　委員會ニ於テ審査ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ具申スヘシ

第七十三條　委員會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　罰則

第七十四條　輸入禁制品ノ輸入ヲ圖リ又ハ其ノ輸入ヲ爲シタル者ハ犯罪ニ係ル貨物ノ原價ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ其ノ貨物ヲ沒收ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條　關稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ關稅ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金若ハ科料ニ處シ犯罪ニ係ル貨物ヲ沒收ス

第七十六條　免許ヲ受クスシテ貨物ノ輸出若ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ前二條ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條　貨物ト符合セサル積荷目錄ヲ提出シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條　第十八條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ他ノ法律ニ於テ別ニ刑ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條　第十二條若ハ第十七條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第十一條、第十三條、第十五條、第十八條第二項、第十九條第二十條若ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第二十六條乃至第二十八條第四十條若ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條　第七十七條乃至第八十一條ノ規定ニ該當スル者ハ不注意ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第八十三條　本法ニ依リ沒收スヘキ貨物ハ犯則當時ノ所有者ノ所有ニ屬スル間ハ之ヲ沒收シ既ニ之ヲ

讓渡若ハ消費シタルトキハ其ノ價格ニ相當スル金額ヲ犯則者ヨリ徵收ス

第七章　犯則事件ノ調査及處分

第八十四條　稅關官吏ハ犯則ノ事實發見ノ爲必要ト認ムルトキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十五條　稅關官吏ハ犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘキ物件ヲ身邊ニ藏匿スル者アリト思料シタルトキハ其ノ開示ヲ求メ若之ニ從ハサルトキハ身邊ノ搜索ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　稅關官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ犯則者證人參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第八十七條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲ストキハ制服ヲ著用シ又ハ其ノ資格ヲ證明スル證票ヲ携帶スヘシ

第八十八條　稅關官吏ハ臨檢搜索ヲ爲スニ當リ必要ト認ムルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十九條　稅關官吏搜索ヲ爲ストキハ船車倉庫其ノ他ノ場所ノ所持人又ハ其ノ同居ノ親族、傭人、鄰佑若其ノ在ラサルトキハ其ノ地ノ警察官吏等ハ市町村吏員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

其ノ役員ヲシテ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ親族、傭人若ハ鄰佑ハ成年者ナルヲ要ス

第九十條　稅關官吏犯則事件ノ調査ニ依リ發見シタル物件犯則ノ事實ヲ證明スルニ足ルヘシト思料シタルトキハ之ヲ差押ヘ目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシムルコトヲ得

差押物件腐敗其ノ他損傷ノ虞アルトキハ稅關長ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第九十一條　臨檢搜索及物件差押ハ日沒ヨリ日出迄ノ間之ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九十二條　稅關官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第九十三條　稅關官吏臨檢、搜索、訊問ヲ爲シタルトキハ其ノ調書ヲ作リ立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名スヘシ

立會人若ハ訊問ヲ受ケタル者署名セス又ハ署名スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第九十四條　稅關長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收ニ該當スル物品若ハ徵收金ニ相當スル金額ヲ稅關ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十五條　犯則者前條ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ五日以內ニ之ヲ履行スヘシ此ノ期間內ニ履行セサルトキハ稅關長ハ直ニ告發スヘシ

第九十六條　犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコトナシ

第九十七條　稅關長ハ通告ヲ爲シ難シト認ムルトキ若ハ通告ノ旨ヲ履行スル資力ナシト認ムルトキハ直ニ告發スヘシ

第八章　補則

第九十八條　船舶修繕ノ爲又ハ巨大重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸シ難キ貨物ヲ陸揚スル爲必要ト認ムルトキハ當分ノ內稅關長ハ外國貿易船ノ不開港ニ出入スル特許ヲ與フルコトヲ得

第九十九條　從來ノ開港ノ外開港トナスヘキ場所及其ノ開港ニ於テ輸出若ハ輸入スヘキ貨物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百條　本法ノ期間ヲ定ムルニ日時ヲ以テシタルモノハ其ノ期間中ニ稅關ノ休日ヲ算入セス

日ト稱スルハ二十四時ヲ謂ヒ月ト稱スルハ三十日ヲ謂ヒ年ト稱スルハ曆ニ從フ

第百一條　本法ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第百二條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第百三條　明治十六年布告第四十號、特別輸出港規則、同二十三年勅令第五十四號、稅關法、稅關規則、同二十六年法律第十三號、同二十七年法律第二號、同年法律第三號、同二十九年法律第十八號其ノ他本法ニ抵觸スル法令ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●關稅法施行期日　（三十二年勅令第三百十七號）

關稅法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

●關稅法施行規則　（三十二年勅令第三百十九號）

第一章　賦課徵收及擔保

第一條　關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受クヘキ地域內ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エサル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條　前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館、帝國領事館及貿

易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明ヲ以テスルヲ要ス

前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第三條　關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付金庫ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ

但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第四條　納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付スヘシ

第五條　旅客ノ携帶品關稅法第二十四條但書ニ揭ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第六條　關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第七條　前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第八條　郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第九條　關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、原價、諸費及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十條　關稅ハ擔保トシテ提供スヘキモノハ金錢及有價證券ニ限ル

第十一條　擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條　稅關ハ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十三條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ競賣スヘシ

第十四條　前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、證券ノ種類、金額、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十五條　公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十六條　關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章　船舶ニ關スル手續

第十七條　船舶ノ入港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十八條　積荷目錄ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量、及荷受人ヲ記載スヘシ

關稅法第十五條ニ依リ提出スヘキ積荷目錄ニハ前項ニ揭ケタル事項ノ外貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ記載スヘシ

第十九條　艙口申告書ニハ艙口ノ所在、箇數、船用品目錄ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客氏名表ニハ旅客ノ國籍氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條　外國貨物ヲ積載セル船舶、積荷目錄提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條　船舶ノ出港屆ハ船舶ノ名稱、國籍、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十二條　外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ直ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條　外國貨物ヲ積載セル船舶日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ但シ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船內國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　警察官吏關稅法第十八條第二項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ所轄稅關又ハ監視署ニ急報スヘシ

第二十六條　關稅法第十九條ニ揭ケタル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕スルノ認許ヲ受ケントスルトキハ船長ヨリ船卸港、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第二十七條　外國貨物ノ假陸揚ヲ爲サントスルトキハ其ノ記號、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ豫メ申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

第二十八條　關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十九條　沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量及原價ヲ記載シタル目錄ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章　貨物ニ關スル手續

第一節　總則

第三十條　日沒ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取若ハ發送ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條　前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第三十二條　稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ等種類ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條　稅關又ハ稅關支署ノ構外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第二十四條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納付スヘシ

第二節　貨物ノ輸出及積戾手續

第三十四條　輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格及仕向港ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客携帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ

修繕ノ爲輸出シ再ヒ輸入スヘキ貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的再輸入ノ場所及期限ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スヘシ

第三十五條　關稅定率法第六條ニ依リ關稅ヲ免除セラレタル貨物ヲ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以內ニ輸出セントスル者又ハ通過ノ爲輸入シタル貨物ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條　第三十四條第一項ノ規定ハ積戾申告ニ之ヲ準用ス

第三節　貨物輸入ノ手續

第三十七條　輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量、原價及諸費ヲ記載スヘシ

第三十八條　旅客携帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　關稅定率法第五條第十號及第十一號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ

第四十條　關稅定率法第六條ニ揭ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入港稅關ニ申告スヘシ

第四十一條　通過ノ爲輸入スル貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地ヲ記載スヘシ

第四十二條　關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條　貨物ノ仕入書ハ輸入免許ヲ爲スト同時ニ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第四十四條　郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ

郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四十五條　郵便物ヲ名宛人ニ交付スル能ハサルトキハ郵便局ハ關稅法第四十二條ニ依リ發シタル通知書ニ其ノ理由ヲ記入シ稅關ニ還付スヘシ

第四節　貨物ノ回漕

第四十六條　貨物回漕ノ申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、內外國貨物ノ區別、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條　回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ回漕免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

稅關ニ於テ前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ貨物ノ檢査ヲ爲シ免狀ト符合スルトキハ該免狀ニ回漕濟ノ旨ヲ記入シテ提出者ニ還付スヘシ

第五節　貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條　關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載

スヘシ

第四十九條　關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ掲ケタル事項、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十條　收容貨物ノ數料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章　異議

第五十一條　關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ニ表示スヘシ

第五十二條　異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名、異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條　判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條　判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ

第五十五條　異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ掲示スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ掲示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキヲ以テ判定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第五十六條　關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條　異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以內ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條　稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條　稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十條　評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作リ之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六十一條　評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五章　犯則事件ノ調査及處分

第六十二條　差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條　差押目錄ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條　差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ徵シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條　關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ競賣ニ付スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條　臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時竝供述ノ要領ヲ記載スヘシ

第六十七條　稅關官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第六十八條　關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ揭ケタル項事ノ外犯則ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條　第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條　沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十一條　稅關長犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第七十二條　犯則ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字插入削除若ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除シタルトキハ其ノ字體ヲ存シ證キ其ノ字數ヲ載記スヘシ

第六章　稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條　稅關ノ執務時附ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時迄トス

第七十四條　稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提供スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第七章　雜則

第七十五條　關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、貨物ノ陸揚ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條　稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第七十七條　大藏大臣ハ機械、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地建設物又ハ備品ヲ使用スル者ナシテ使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條　手數料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條　手數料及使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料及使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條　稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條　關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官名氏及年月日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十二條　申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出者之ニ署名スヘシ

第八十三條　關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄內ニ在リテハ稅關支署ニ提出スヘシ

前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附則

第八十四條　本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨリ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第八十五條　明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●稅關管轄區域（二十三年勅令第二百四號）

横濱稅關管轄區域

陸前　磐城　常陸　下總　上總　安房　武藏　相模　伊豆　駿河　遠江

十一箇國及小笠原島ノ沿岸

大阪關稅管轄區域

參河　尾張　伊勢　志摩　紀伊　和泉　攝津西成郡以東

七箇國ノ沿岸

神戸稅關管轄區域

攝津川邊郡以西　播磨　備前　備中　備後　安藝　周防　長門　石見　出雲　伯耆　因幡　但馬　丹後　隱岐　伊豫　土佐　阿波　讃岐　淡路

二十箇國ノ沿岸

長崎稅關管轄區域

肥前　肥後　筑前　筑後　豐前　豐後　日向　大隅　薩摩　壹岐　對馬　琉球

十二箇國ノ沿岸

新潟稅關管轄區域

若狹　越前　加賀　能登　越中　越後　羽前　羽後　佐渡

九箇國ノ沿岸

函館稅關管轄區域

陸奥　陸中　渡島　後志　石狩　天鹽　北見　根室　千島　釧路　十勝　日高　膽振

十三箇國ノ沿岸

●稅關支署及監視署（二十六年勅令第百三十九號）

關稅出張所及派出所ヲ置キ其ノ名稱位置ヲ定ムルコト左ノ如シ

清水横濱稅關支署

下ノ關神戸稅關支署

宮津神戸關稅支署

境神戸關稅支署

濱田神戸稅關支署

四日市大阪稅關支署

門司長崎稅關支署

博多長崎稅關支署

唐津長崎關稅支署

口ノ津長崎稅關支署

駿河國清水（三十年勅令第二百四十號ヲ以テ追加）

長門國赤間關

丹後國宮津

伯耆國境（二十九年勅令第三百五十一號ヲ以テ追加）

石見國濱田（同上）

伊勢國四日市

豐前國門司

筑前國博多

筑前國唐津

肥前國口ノ津

三角長崎稅關支署　肥後國三角
嚴原長崎稅關支署　對馬國嚴原
佐須奈長崎稅關支署　對馬國佐須奈
鹿見長崎關稅支署　對馬國鹿見
那覇長崎稅關支署　琉球國那覇（二十七年勅令第五十九號ヲ以テ追加）
小樽函館稅關支署　後志國小樽
釧路函館稅關支署　釧路國釧路
室蘭函館關稅支署　膽振國室蘭（二十七年勅令第五十九號ヲ以追加）
夷港新潟稅關支署　佐渡國夷
伏木新潟稅關支署　越中國伏木
七尾新潟稅關支署　能登國七尾（三十年勅令第二百四十號ヲ以テ追加）
敦賀新潟稅關支署　越前國敦賀（二十九年勅令第三百五十一號ヲ以テ追加）
築地横濱稅關監視署　武藏國東京
本牧横濱稅關監視署　武藏國本牧（三十年勅令第二百四十號ヲ以テ本項以下追加）
屏風浦横濱稅關監視署　武藏國屏風浦
館山横濱稅關監視署　安房國館山
父島横濱稅關監視署　小笠原島父島
今治神戸稅關監視署　伊豫國今治
鹿兒島長崎稅關監視署　薩摩國鹿兒島
稚内函館稅關監視署　北見國稚内

本令ハ明治二十六年十一月一日ヨリ施行ス

●關稅定率法（三十年法律第十四號）

第一條　外國ヨリ輸入スル物品ニシテ附屬稅表第一種ニ屬スルモノハ同表ノ稅率ニ依リ輸入稅ヲ課シ第二種ニ屬スルモノハ輸入稅ヲ免シ第三種ニ屬スルモノハ輸入ヲ禁ス

附屬稅表第一種第十五類ニ屬スル物品ニシテ攝氏驗溫器十五度ノトキニ於テ原容量百分中酒精ノ容量六十五ヲ超過スルモノハ第六十九號酒精ノ率ニ依リ課稅ス（三十二年法律第十八號ヲ以テ追加）

第二條　物品ノ課稅價格ハ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ荷造費、運送費、保險料其ノ他輸入港ニ到著スル迄ノ諸費ヲ加ヘテ算定ス

第三條　附屬稅表ニ掲クル物品ニシテ從價稅ニ代フルニ從量稅ヲ以テスルヲ便宜トスルモノハ勅令ヲ以テ其ノ物品及細別ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ從量稅ハ前條ノ算法ニ依リ六箇月以上ノ平均價格ヲ算出シ附屬稅表ノ稅率ニ基キ之ヲ定ムヘキモノトス

第四條　附屬稅表中二箇以上ノ稅率ヲ適用シ得ヘキ物品ニ對シテハ其ノ最高ノ率ニ從テ課稅ス

第五條　左ノ物品ハ輸入稅ヲ課セス

第一　御料品

第二　帝國陸海軍ノ輸入ニ係ル兵器彈藥及爆發物

第三　海軍艦船
第四　帝國ニ派遣セラレタル各國公使ニ屬スル自用品
第五　勳章賞牌
第六　記錄文書其ノ他ノ書類
第七　商品ノ見本但シ見本用ニノミ適スルモノニ限ル
第八　旅具（旅客ノ携帶スルモノ）
第九　官立公立ノ博物館及物品陳列所ヘ永久陳列ノ爲ニ輸入スル物品
第十　內國產ニシテ五箇年以內ニ外國ヨリ積戻リ輸出ノ時ノ性質及形狀ヲ變セサルモノ但シ煙草類酒類ヲ除ク
第十一　修繕ノ爲外國ニ輸出シ再ヒ輸入スルモノ
第十二　政府ノ輸入ニ係ル政府ノ專賣品
第七號第八號第九號ハ物品ノ稅關ニ於テ相當ト認ムルモノニ限ル
第十一號ノ物品ハ輸出ノ際豫メ再輸入ノ期限ヲ定ムヘシ
第六條　左ノ物品ニシテ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以內ニ再ヒ輸出スルモノハ輸入稅ヲ課セス但シ輸入ノ際其ノ輸入稅金ニ相當スル金額ヲ預入レ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ
第一　修繕ノ爲一時輸入スルモノ
第二　學術研究旅行者使用ノ爲一時輸入スルモノ
第三　試驗品トシテ一時輸入スルモノ
第四　商人、工業者及注文取集旅商ノ見本品トシテ一時輸入スルモノ
第五　演劇其ノ他興業用ノ爲一時輸入スルモノ
第七條　附屬稅表中改正ヲ要スルトキハ旅行期日ヨリ少ナクモ六箇月前ニ之ヲ公布ス

附則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（輸入稅表略之）

●輸入物品從量稅目（三十一年勅令第二百二十號）

（略之）

●噸稅法（三十二年法律第八十八號）

第一條　外國貿易ノ爲外國ニ往來スル船舶開港ニ入港シタルトキハ其ノ入港每ニ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付五錢ノ噸稅ヲ課ス但シ登簿噸數一噸又ハ積量十石ニ付十五錢ヲ一時ニ納付スルトキハ其ノ港ニ於テハ滿一年間噸稅ヲ納ムルヲ要セス

帝國ト測度法ヲ異ニスル國ノ船舶ノ登簿噸數ハ帝國ニ於テ定ムル測度法ニ依リ換算ス

第二條　噸稅ハ船舶入港シタルトキ船長ヨリ稅關ニ納付スヘシ

第三條　海難其ノ他止ムヲ得サル事故ニ由リ入港シタル船舶ニハ噸稅ヲ課セス但シ本條ノ事故ニ由ルニアラスシテ貨物ノ積卸ヲ爲ストキハ此ノ限ニアラス

第四條　稅關長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ノ測度ヲ爲スコトヲ得

第五條　噸稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ噸稅ヲ納付セスシテ出港シタルトキハ船長ヲ其ノ逋脫ヲ圖リ若ハ納付

セサリシ稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス

第六條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス但シ通告履行ノ期間ハ通告ヲ受ケタル時ヨリ四十八時以內トス

第七條　噸稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法ヲ適用セス

附　則

第八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

●噸稅法施行期日　（三十二年勅令第三百十八號）

噸稅法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

●噸稅法施行規則　（三十二年勅令第三百二十號）

第一條　噸稅法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨稅關又ハ稅關支署ニ申告スヘシ

第二條　稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルトキハ其ノ稅金額及納付金庫ヲ指定シテ納稅人ニ告知スヘシ

第三條　海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關又ハ稅關支署ニ證明スヘシ但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　噸稅納付濟ノ證書又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手數料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手數料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條　犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ噸稅法施行ノ日ヨリ施行ス

●保稅倉庫法　（三十年法律第十五號）

第一章　總則

第一條　保稅倉庫ハ輸入手數未濟ノ貨物ヲ藏置スル所トス

第二條　保稅倉庫ニ藏置ノ貨物ハ其ノ藏置中輸入シタルモノト看做サス

第三條　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入稅ハ其ノ最初輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收スヘシ

第四條　保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手數未濟貨物ヲ運搬スルトキハ命令ヲ以テ定ムル通路ニ依ルヘシ

第五條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入ニ關シテハ此ノ法律ニ規定シタルモノノ外稅關法及稅關規則ヲ適用ス

第七條　保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿一箇年トス

第八條　保稅倉庫ニ藏置ノ貨物庫移ヲ爲ストキハ其ノ藏置期限ハ總テ最初庫入ノ日ヨリ通算ス

第九條　輸入手數未濟ノ貨物ヲ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ニ對スル輸入稅金ヲ假納セシムルコトヲ得

前項ノ貨物陸揚申告ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過キテ仕向地ニ到達セサルトキハ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

第二章　官設保税倉庫

第十條　官設保税倉庫ニ藏置スル貨物ニ對シテハ記名ノ預證券ヲ發スルモノトス

第十一條　預證券ハ裏書ヲ以テ讓渡スコトヲ得

第十二條　預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨當該官廳ニ届出ヘシ

前項ノ場合ニ於テ其事訴訟法ニ依リ其ノ證券ヲ無効トスル除權判決アリタルトキハ權利者ニ新證券ヲ交付ス

第十三條　前條第一項ノ届出アリタル預證券ヲ持參スル者アルトキハ持參人及届出人ニ於テ相當ノ手續ヲ爲シ其ノ權利者確定スル迄藏置貨物ノ引渡ヲ停止ス

第十四條　藏置ノ貨物ハ預證券引換ニ交付スルモノトス

第十五條　藏置貨物引取ノ權利ニ付訴訟アルトキハ其ノ當事者ハ藏置期限ノ延期ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　藏置期限ヲ經過シテ貨主貨物ヲ引取ラサルトキハ無請求品トシ當該官廳ハ其ノ貨物ノ記號、番號、品名、箇數等ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ滿六箇月ヲ經テ之ヲ引取ル者ナキトキハ當該官廳ハ其ノ貨物ヲ競賣ニ付シ輸入稅、公告料、競賣手數料、庫敷料其ノ他一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ貨主ニ還付ス

第十七條　藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限内ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ當該官廳ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限内ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

前項ニ依リ滅却シタル貨物ニ對シテハ輸入稅ヲ徵收セス

第三章　私設保税倉庫

第十八條　保税倉庫ヲ設ケ輸入手數未濟ノ貨物ヲ保管スル業ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條　私設保税倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十條　私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入稅ニ付自ラ一切ノ責任ヲ有シ天災事變其ノ他何等ノ事故ニ因ルヲ問ハス貨物紛失滅失シ若ハ盜難ニ罹ルモ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條　私設保税倉庫ノ庫主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ保管貨物輸入稅ノ擔保トシテ金錢又ハ國債證券ヲ供託スヘシ

第二十二條　私設保税倉庫ニハ庫主ニ屬スル貨物ヲ藏置スルコトヲ得ス

第二十三條　私設保税倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿一箇年ヲ過クルトキハ輸入稅ヲ徵收ス

第二十四條　私設保税倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十五條　當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ私設保税倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十六條　私設保税倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一　庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ

二　庫主死亡シタルトキ

三　庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　特許ノ期限滿了シタルトキ

五　主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條　私設保税倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限内ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以内ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保税倉庫又ハ他ノ私設保税倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第二十八條　營業特許ノ消滅シタル私設保税倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保税倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條　第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保税倉庫ニ於ケル諸般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一　業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ

二　庫主輸入税ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ

三　庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第四章　罰則

第三十一條　當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ貨物ヲ沒收ス若既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第四條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十二條　當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保税倉庫ニ貨物ヲ庫入レスルコトヲ得ス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ私設保税倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定メタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十四條　第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

附則

第三十五條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

●開港港則（三十一年勅令第百三十九號）

第一條　左ニ記載スル外國通商ヲ許シタル諸港ノ經界ハ左ノ如ク之ヲ定ム

横濱ノ港界ハ十二天（マンダリン、プラフ）ヨリ燈船マテ夫ヨリ正北ニ向ヒ鶴見川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル

神戸ノ港界ハ生田川ノ蓄口ヨリ南方ニ向ヒ引キタル一線ト和田崎ヨリ北東ニ向ヒ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界トナシタル面積内ニ含マル

新潟ノ港界ハ燈臺ヲ中心トシ二海哩半ノ半徑ヲ有スル圓圈ノ一弧内ニ含マル

寒港ノ港界ハ椎泊村ヨリ北五十里村外堺マテ引キタル一線ト加茂湖東岸港町ヨリ同湖北西岸加茂村マテ引キタル一線トノ内ニ含マル

大阪ノ港界ハ武庫川口目標(ツリー、ポイント)ヨリ南微西ニ向ヒ引キタル一線ト大和川口ヨリ引キタル一線ト武庫川口目標(ツリー、ポイント)ヨリ六海哩大和川口ヨリ五海哩ノ所ニ於テ相接スル其二線内ニ含マル

長崎ノ港界ハ神崎ヨリ女神ニ引キタル一線内ニ含マル

函館ノ港界ハ阿野間崎ヨリ南方沖合半海哩ノ所ヨリ上磯村有川口ノ東岸マテ引キタル一線内ニ含マル

第二條　各船舶ハ入港スルニ當リ其國旗及信號符字ヲ揭クヘシ定期郵便船ハ會社旗ヲ以テ信號符字ニ代用スルコトヲ得

右國旗及信號符字又ハ會社旗ハ船舶ノ著港ヲ港長ニ届出タル後ニアラサレハ之ヲ引下スヘカラス

著港届ハ日曜日及大祭日ヲ除クノ外著港後二十四時間内ニ之ヲ差出スヘシ但シ著港届ヲ差出シタル後ニアラサレハ如何ナル船舶タリトモ税關手續ノ便利ヲ與ヘサルモノトス

第三條　各船長ハ其著港ニ際シ自由交通ノ許可ヲ受クルマテハ其船舶ト他ノ船舶或ハ陸地トノ間ニ於ケル一切ノ交通ヲ差止ムヘシ

第四條　港長ノ端艇ハ港ノ入口近傍ニ出向キ居リ港長ハ各船舶ノ入港スルニ當リ其泊船所ヲ示定スヘシ而シテ各船舶ハ止ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外特許ナクシテ其泊船所ヲ去ルヘカラス但シ港長ニ於テ必要ト認ムルトキハ船舶ヲシテ其泊船所ヲ移サシムルコトヲ得

第五條　港長ハ其執務ノ間常ニ制服ヲ著ケ其端艇ニハ別紙雛形ノ如キ旗ヲ揭クヘシ

港長ハ何時タリトモ船舶ノ運動繫船ノ適否及碇泊所ニ關スル指揮カ果シテ實行セラレ居ルヤ否ヲ檢査スルコトヲ得

第六條　如何ナル船舶モ公ケノ航路ニ投錨シ若クハ其他航海ノ自由ヲ障碍スヘカラス

「ブイ、ブームス」ヲ接キ出シタル船舶ニシテ其「ブイ、ブームス」カ航海ノ自由ヲ障碍スルトキハ港長ノ請求ニ從ヒ之ヲ取込ムヘシ

第七條　港界内ニ碇泊シ又ハ運航スル各船舶ハ日没ト日出ノ間ニハ海上衝突豫防ニ關スル法令ニ規定シタル各種ノ船燈ヲ揭クヘシ

第八條　暴風雨ノ來ラムトスルトキ或ハ警報信號ヲ揭ケタルトキハ各船舶ニ於テ直ニ一箇又ハ一箇以上ノ豫備錨ヲ投下スルノ準備ヲ爲スヘシ尤モ汽船ハ此外別ニ蒸氣ヲ發生セシムヘシ

第九條　常川ニ超過シ爆發物又ハ容易ニ燃燒スヘキ物料ヲ積載シタル一切ノ船舶ハ港界外ニ來リ其處ニテ港長ノ指揮ヲ待ツヘシ斯ク指揮ヲ待ツ間右船舶ハ日出ト日没ノ間ニハBノ信號日没ト日出ノ間ニハ紅燈ヲ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ

各船舶ハ港長ノ指定シタル場所ニアラサレハ前記ノ物料ヲ積入レ又ハ荷卸スヘカラス

第十條　休繫中又ハ修繕中ノ船舶及總テ「ヤット」倉庫船、貨船及端艇等ハ特ニ港長ノ指定シタル泊船所ニ碇泊スヘシ

第十一條　船舶ハ港界内ニ於テ火ヲ失シタルトキハ救援ノ來ルマテ船鐘ヲ打鳴スヘシ且ツ日出ト日没ノ間ニハNMノ信號ヲ揭ケ日没ト日出ノ間ニハ斷エス紅燈ヲ上下スヘシ

警察官ノ救援ヲ要スルトキハ日出ト日沒ノ間ニハGノ信號ヲ揭ケ日沒ト日出ノ間ニハ藍火若クハ閃火ヲ示スヘシ

前記ノ如キ信號ニ用ユル場合ノ外港長ノ允許ヲ得ルニアラサレハ港界內ニ於テ銃砲及煙火等ヲ發スルコトヲ得ス

第十二條　帝國政府ニ於テ流行病若クハ傳染病（虎烈刺、天然痘、黃熱、猩紅熱、「ペスト」ノ類）アル地ト布告シタル地ヨリ來著シ又ハ航海中船中ニ該病アリタル船舶ハ港界外ニ來リ日出ト日沒ノ間ニハ黃旗ヲ日沒ト日出ノ間ニハ紅白二燈ヲ上下ニ連ヲ前檣ノ頂上ニ揭クヘシ又前記ノ船舶ハ當該衛生官吏ノ臨檢ヲ受クヘシ

衛生官吏臨檢ノ爲メ其船舶ニ近寄リタルトキハ適當ノ豫防ヲ施シ得ル爲メニ航海中現ニ該病發生ノ有無及該病ノ性質如何ヲ該官吏ニ通知スヘシ

右船舶ハ自由交通ノ允許ヲ受クルマテ黃旗若クハ前記ノ燈火ヲ引下スヘカラス且ツ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ何人タリトモ上陸セシメ又ハ一切他ノ船舶ト交通スルヲ許サス

前數項ノ規定ハ港界內ニ碇泊スル船舶中ニ於テ前記ノ流行病及傳染病ノ內何病ニテモ發生シタルトキニ之ヲ適用ス

右船舶ハ港長ヨリ其旨命令ニ接スルトキハ其泊船所ヲ移轉スヘシ

牛羊等傳染病アル地ヨリ來著シ又ハ航海中該病ヲ發生シタル船舶ハ當該衛生官吏ノ允許ヲ得ルニアラサレハ牛羊等又ハ其死體、皮革又ハ骨ヲ陸揚シ又ハ他船ニ積換ユルコトヲ許サス

第十三條　港界內ニ於テ死體、荷足、灰燼、塵芥等ヲ海中ニ拋棄スヘカラス

石炭、荷足其他之ニ類スル物料ヲ積卸スルトキハ其海中ニ脫落スルヲ防ク爲メ必要ノ豫防ヲ爲スヘシ

何船舶ニテモ港ニ害アル一切ノ物料ヲ海中ニ投棄シ又ハ怠慢ニ依リ脫落セシメタルトキハ港長ヨリ其旨命令ニ接セハ該船舶ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ取除カサルニ於テハ港長ハ該船舶ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシムルコトヲ得

第十四條　船舶出港セントスルトキハ其旨港務局ニ屆出テ且ツ出帆旗ヲ引揭クヘシ

一定ノ時日ニ出帆スル汽船ハ其著港及出帆ニ對シ單ニ一回ノ屆出ヲ爲スヲ以テ足レリトス

第十五條　一港內又ハ其附近ノ公ケノ航路ノ妨害トナルヘキ總テノ難破物又ハ其他ノ物件ハ港長ノ指定セル時間內ニ其所有主ニ於テ之ヲ取除クヘシ若シ港長ノ指定セル時間內ニ此命令ヲ遵行セサルニ於テハ港長ハ所有主ノ費用ヲ以テ之ヲ取除カシメ又ハ破壞セシムルコトヲ得

第十六條　港務局ハ定期郵便汽船ノ爲メニ適切ニシテ且ツ充分ナル浮標ノ繫船器若干ヲ備ヘ置キ之ヲ使用スル所ノ船舶ヲシテ成規ノ使用料ヲ拂ハシムヘシ

第十七條　燈船、信號用浮標又ハ立標ニハ鎖、綱其他ノ標具ヲ繫クヘカラス

船舶若シ燈船、浮標、立標、埠頭及其他ノ造營物ニ乘掛ケ又ハ之ヲ毀損シタルトキハ其修繕又ハ再設ノ爲メニ必要ノ費用ハ該船舶ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第十八條　本則ノ規定ヲ犯シタルトキハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　船舶ニ科スル罰金、使用料又ハ費用ニ付テハ船長モ亦其責ヲ負フモノトス

第二十條　本則ニ依リ船舶ニ科シタル罰金、使用料又ハ費用ヲ完納スルカ或ハ之ニ對シ港長ノ滿足スヘキ擔保物ヲ港長ニ差出スニアラサレハ其船舶ノ出港ヲ許サス

第二十一條　本則ニ於テ港長ト稱スルハ助役及代理者ヲモ包含シ船長ト稱スルハ其名稱ノ何タルヲ問

ハス船舶ヲ指揮監督スル者ノ義ニシテ港ト稱スルハ本則第一條中ニ列記セル諸港ノ一ヲ指ス

第二十二條　各港ニ於テ其一部分ヲ軍艦ノ碇泊所トシテ除取ケ置クヘシ

第二十三條　本則ノ規定中軍艦ニ適用セラルヘキモノハ第四條、六條、十二條、二十一條ノ規定及第十三條第一項及第二項ノ規定ニ限ル

第二十四條　本則施行ノ時期及場所ハ遞信大臣之ヲ告示ス

本則實施ニ關スル細則ハ遞信大臣之ヲ發布ス

（別紙略）

㋑神戸港船舶碇繫所區域擴張（二十五年勅令第七十七號）

神戸港船舶碇繫所ノ區域ハ舊生田川口ヨリ正南ニ向ヒ和田岬ノ尖角ヨリ北東ニ向ヒ直線ヲ畫シ其兩線交叉以内ト定ム

本令ハ明治二十五年十月一日ヨリ施行ス

●外國貿易ノ爲メ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港（二十九年勅令第三百十六號）

明治二十九年法律第十八號ニ依リ外國貿易ノ爲メ帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ヲ爲スヘキ港ハ左ノ如シ

筑前國博多
肥前國唐津
肥前國日ノ津
越前國敦賀
伯耆國境
石見國濱田
駿河國清水（三十年勅令第二百二十六號ヲ以テ追加）
伊勢國四日市（仝上）
能登國七尾（仝上）
肥後國三角（三十一年勅令第九十三號ヲ以テ追加）

本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス

●昆布木材及板ヲ不開港場ヨリ輸出スルヲ許ス（二十四年勅令第百九十九號）

第一條　大藏大臣ハ帝國臣民ニ限リ外國ニ輸出スル昆布木材及板ノ三品ヲ不開港ニ於テ外國通航ノ内國船ニ積載シ直ニ外國ニ航行スルノ特許ヲ與フルコトヲ得

第二條　前條ノ特許ニ關スル手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三條　本令ハ明治二十四年十月二十一日ヨリ施行ス

●外國通航ノ郵船下ノ關福江門司三港ニ回船ノ特許（二十三年勅令第二百六十二號）

大藏大臣ハ郵便物、内地同漕品及旅客運送ノ爲メ外國通行ノ郵船ヲ長門國下ノ關肥前國福江豐前國門司ノ三港ニ回船スルノ特許ヲ與フルコトヲ得（二十四年勅令第二百三十六號ヲ以テ福江ノ下ニ豐前國門司ノ五字ヲ加ヘ兩ヲ三ニ改ム）

●軍港要港境域内ノ人民及船舶出入取締方（二十三年法律第二號）

軍港要港境域内ニ所在ノ人民及出入スル船舶ハ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ從フヘシ但海軍大臣ニ於テ軍港要港規則ヲ定ムルトキハ内務大臣農商務大臣ト協議スヘシ

●回漕貨物取扱條例（八年第百八十四號布告）

第一條　回漕貨物ノ荷造リハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ防クヘキ樣務メテ堅固ニシ其品柄又ハ荷造リノ摸樣ニヨリテハ錠鎖或ハ封印スヘシ

第二條　穀物鹽類等ノ俵物酒醬流液ノ樽物等總テ減損漏脱シ易キモノハ積入ノ時必ス船主貨主ノ間ニ特殊ノ約定ヲナスヘシ

第三條　船主ハ荷造ノ粗糙ナルカ錠鎖或ハ封印ナキヲ以テ第一條ノ難ヲ防キ難シト思惟スルトキハ貨主ニ其趣ヲ通知シテ之ヲ堅固ナラシメ或ハ錠鎖封印セシメ又第二條ノ物品ヲ托セラルルトキハ特殊ノ約定ヲナスヘキヤ否ヤヲ訊問スヘシ

第四條　貨主ハ第三條ノ通知或ハ訊問ヲ得ルモ之ヲ堅固ナラシメス或ハ錠鎖封印セス又其約定ヲ爲サヽルトキハ濡沾減損或ハ漏脱等ノ難ヲ運送中ニ生スルモ船主ニ對シ其辨償ヲ要スル權利ナカルヘシ

第五條　回漕運賃ハ發船ノ甲地ニ船テ波戸場或ハ船主ノ倉庫等船主ノ其貨物ヲ受取ルヘキ適當ノ地ト定メタル場所ヨリ著船ノ乙地ニ於テハ波戸場或ハ其船主ノ倉庫等ノ其貨物ヲ引渡スヘキ適當ノ地ト定メタル場所迄ノ運送費ヲ稱スルモノニシテ甲乙地ニテ其定メタル場所ノ外之ヲ取集及ヒ配達スルノ費用ヲモ合スルモノニアラス故ニ其取集及ヒ配達ヲモ船主ニ托スルトキハ貨主ハ回漕本貨ノ外ニ相當ノ取集及ヒ配達賃ヲ拂ハサルヘカラス

第六條　前條乙地ニ著船スルトキハ船主ヨリ貨主ニ其貨物ヲ渡スヘキ適當ト定メタル場所ニ於テ何日何時ヲ限リ其貨物ヲ渡スヘキ旨ヲ報告スヘシ若シ貨主ノ都合ニ依リ其時日ヲ過キテ之ヲ受取ラサルトキハ其後ニ至リ危險損害ヲ生スルトモ船主ハ其責ニ任セサルヘシ

但其報告スヘキ日時ハ必ス貨主ノ受取得ヘキ適宜ノ時間ヲ以テスヘシ若シ不適宜ノ時間ヲ以テスルトキハ之ヲ報告セサルト同般ト做スヘシ然ルトキハ之ニ生スル危險損失ハ船主ノ責ヲ免カルヘカラス

第七條　前條ノ如ク其報告時限ヲ過ルトキハ船主ハ之ニ生スル危險損失ハ其責ニ任セスト雖モ必ス危險損失ヲ生セサル樣之ヲ倉庫ニ納メ或ハ番人ヲ附ケ或ハ雨覆等ノ備ヲナシ勉メテ保護ノ手立ヲナスヘシ然ルトキハ相當ノ倉敷料番人賃其他之ニ屬スル費用ヲ貨主ヨリ拂ハシムヘシ

第八條　回漕運賃ハ第五條ニ記載セル甲乙約定地ノ全運航賃ナルニ因リ其全運航ヲ畢ヘサル間ハ貨主ハ之ヲ拂フヲ拒ムノ理アリ又幾石何千斤ニ付此運賃若干ト約定セシニ其全量中幾分ノ下足ヲ生スルトキハ貨主ハ其全運賃ヲ拂フヲ拒ミ得ヘシ然レトモ其全量幾百俵何千箇ヲ運送セシムルモ其一俵一箇ニ付運賃幾許ト約定セルトキハ其全量ノ如何ヲ問ハス之ヲ受取リタル俵數箇數ニ就テ約定運賃ヲ拂ハサルヘカラス又封印ヲ檢シ外包ノ異狀ナキヲ以テ之ヲ受取後其包中ノ物品ニ不足或ハ損傷アルトモ其辨償ヲ船主ニ責ムルヲ得ヘカラス

第九條　船主ハ其約定ヲ履テ安全ニ其貨物ヲ運送スルヲ本分ノ義務トス故ニ第一條及ヒ第二條ニ述ヒタル貨物或ハ正ニ請取シ旨ヲ證シタル貨物ノ全數中ニ損害不足ヲ生スル等ノ事アルトキハ其貨物ノ原價ニ從テ之ヲ辨償スヘシ

但海上難船ノ災阨ニ罹ルモノハ危險請負法或ハ海上平均法ノ別種ニ屬シテ此限ニアラス

第十條　運賃ハ船主貨主ノ協議ニ依リテ甲地又ハ乙地ニ於テ受拂フヘシ然レ𪜈之ヲ乙地ニ於テ受拂フ時ハ其貨物ト引換ヲ以テスヘシ若シ貨物ヲ受取リタル後其拂方ヲ怠ルトキハ船主ハ其受取ルヘキ賃額ヘ對シ相當ノ利息ヲ課シテ要請スルヲ得ヘシ

●危害品船積法則　（六年第二百九十二號布告）

危害ヲ生スヘキ物品ヲ漫リニ船積致シ候テハ他ノ物品ヲ傷害シ甚シキハ全船ヲ失ヒ人命ヲ損シ不容易儀ニ付左ノ條件之法則ヲ定メ當明治六年十月一日ヨリ令施行候條此旨布告候事

一火藥硝石硫黄ノ類及ヒ發火シ易キ製藥品其他油脂醬液并腐敗シ易キ性質ニシテ他物ヲ損害スヘキ物品船積致候時ハ其品名ヲ表包ノ外部ニ書キ記シ或ハ其送狀ニ記載致シ船主船長又ハ運漕會社危難請合會社等ノ承諾ヲ得テ後差出スヘシ若シ其手數無之尋常ノ荷物ト伴リ之ヲ船積致シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

一尋常ノ品物トシテ差出シタル荷物ノ内ニ前條ノ如キ危害品可有之ト見受候時ハ船主船長運漕會社危險請合會社ハ何時ヲ限ラス何地ヲ論セス直ニ發包シテ之ヲ視査スルノ權利可有之事

但爲視査發包シタル荷物中ニ危害品無之時ハ船主會社等ノ入費ヲ以テ故ノ如ク荷造可致然レ共其荷物中ニ危害品有之時ハ是等ノ入費都テ荷主ヨリ可拂事

一此危害品ヲ船積セサル以前運漕會社又ハ危險請合會社ノ倉庫等ニ於テ見出ス時ハ之ヲ安全ノ場所ニ移シ置キ直ニ其管轄廳或ハ裁判所ヘ可屆出事

但安全ノ場所ニ之ヲ移スノ費用ハ荷主ヨリ辨償可致事

一此危害品ヲ既ニ船積シタル後ニ見出シ之ヲ安全ノ場所ニ保チ難キ時ハ船中ニ於テ三人以上ノ保證人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ著港ノ上直ニ其次第書及ヒ荷主ノ姓名ヲ其地ノ管轄廳或ハ裁判所ヘ可屆出事

但投棄シタル荷物及ヒ是ヨリ生スル荷主ノ損失ヲ辨償スルニ不及事

一船長及ヒ運漕會社等荷主ト申合此危害品ヲ尋常ノ荷物トシテ船積シ或ハ船積セント謀ル者ハ金五百圓以内又之ヲ見出ストイヘトモ官ニ訴ヘ出サル時ハ金二百圓以内ノ罰金ニ處スヘキ事

●水難救護法　（三十二年法律九十五號）

第一章　遭難船舶

第一條　遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行フ

第二條　遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ

警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條　遭難船舶アルコトヲ通知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條　警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第五條　救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條　市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スル

コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事スヘシ

第七條　市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

市町村長前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條　市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隱匿シタル者アリアリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ捜索シマ、ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條　市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ

前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滯ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條　船長ハ遭難後遲滯ナク船難報告書ヲ作リ市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條　市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

一　物件矢ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト

二　爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危險ノ虞アルコト

三　保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スヿヲ得ス

第十二條　救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

一　救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員

二　故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者

三　第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者

四　救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者

五　遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條　左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

一　救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬

二　第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償

三　救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條　救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ救護費用ノ支給ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條　救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシムヘシ

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ又ハ船長在ラサルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者之ヲ爲スヘシ

第十六條　船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

左ニ掲クル物件ハ前二項ノ規定ニ拘ラス其ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

一　船員ノ所持品

二　船員及旅客ノ食料

三　運送賃ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帶スル旅客ノ手荷物

四　第十七條第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ買入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

前項ノ處分ニ因リ取得シタル金錢其ノ他ノ物件ハ市町村長之ヲ保管スヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金額ニ滿シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條　船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十八條　市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條　救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條　本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條　本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條　第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ準用ス

第二十三條　本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章　漂流物及沈没品

第二十四條　漂流物又ハ沈没品ヲ拾得シタル者ハ遅滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ三日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ得拾者ハ所有者ヨリ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條　市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須ヰサルコトヲ得

第二十六條　第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條　市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限リ所有者ハ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額並公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス

物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條　前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキヿヲ拾得者ニ告知スヘシ拾得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

拾得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條　警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市町村長ニ引渡スヘシ

前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條　前條ニ依リ公告若ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ

前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章　罰則

第三十一條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若ハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二　第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三　第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條　遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條　第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ亦之ヲ適用ス

附　則

第三十六條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條　明治三年二月二十九日難船救助心得方條目、明治四年四月二十二日外國船漂著ノ節不開港場規則取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條　此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條　此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

●海上衝突豫防法（二十五年法律第五號）

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用ヰサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ヰルトキハ帆ヲ用ヰルト用ヰサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條　船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日沒ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ揭クヘカラス

第二條　汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ揭クヘシ

一　前檣若ハ其前面ニ於テ又ハ前檣ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ揭クルヲ要セス此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツヽ卽チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ヰルヘシ

二　右舷ハ綠燈ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ヰルヘシ

三、左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鍼盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四　本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五　汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ增掲スルヲ得但シ此場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリモ多キヲ要ス

第三條　汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一箇ヲ增掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一個ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

第四條　事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此紅燈ハ周囲少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又畫間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ、連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ汽船ナレハ其白燈ノ代リニ三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周囲少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又畫間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツヽヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用ヰ中央ノ一箇ハ白色竪菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ雜船信號ト混同スヘカラス雜船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條　航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條　小形船航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其ノ舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ス且成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス此ノ綠光ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲綠燈ハ綠色、紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗リ且適當ノ隔板ヲ備ヘクヘシ

第七條　總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及艤櫂ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若之ヲ掲クサルトキハ必ス左

ノ規定ニ依ルヘシ（三十年法律第四十三號ヲ以テ本條改正）

一　四十噸未滿ノ汽船

甲　船ノ前部又ハ烟突若ハ其ノ前面ニ於テ舷緣上九尺ヨリ低カラス且最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ揭クヘシ

乙　第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ揭クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一箇ヲ揭クヘシ但シ此燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ揭クルヲ要ス

二　汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷緣上九尺ノ所ヨリ下方ニ揭クルヲ得然レトモ其ノ白燈ハ乙ノ兩色燈ヨリ高キヲ要ス

三　二十噸未滿ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫂櫂ヲ用ウルトニ拘ハラス一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一個ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項改正）

四　櫂櫂ヲ以テ運轉スル船ハ櫂櫂ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ハラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ定メテ臨時之ヲ表示スヘシ（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項追加）

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ揭クルニ及ハス

第八條　水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲ストキハ他船ニ要スル燈ヲ揭クヘカラス單ニ周圍ヨリ見得ヘキ白燈一箇ヲ檣頭ニ揭ケ且十五分時ヲ超エサル間隔ヲ以テ閃火一箇又ハ數箇ヲ發スヘシ

水先船ニハ右ノ外綠紅ノ二舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄リ行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ一時之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右ヨリ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要スル船舶ハ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ揭クル代リニ隨時之ヲ表示シ又舷燈ヲ兩舷ニ揭クル代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用ヰタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ前項ニ從テ之ヲ使用スルヲ得

水先船其ノ水先區ニ於テ營業ヲ爲サヽルトキハ其積量ニ應シテ他船ト同一ノ燈ヲ揭クヘシ

第九條（三十年法律第四十三號ヲ以テ本條削除）

第十條　他船ニ追越サレムトスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ揭置クヲ得然レトモ此ノ燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鍼盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ樣隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ揭クヘシ

第十一條　長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ニ白燈一箇ヲ揭クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周圍少クモ一海里距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ揭ケ且船尾若ハ其ノ最寄ニ於テ前方ノ燈ヨリモ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一箇ヲ揭クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船船籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其ノ最寄ニ於テ乘揚ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尚第四條第一項ニ規定シタル紅燈二箇ヲ揭ケヘシ

第十二條　各船他船ノ注意ヲ喚起スル必要ナリトスルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外尚閃火ヲ發シ或ハ雖船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條　本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラルヽ船舶ニ增揭スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其ノ國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條　汽船霧間ニ帆ノミヲ以テ運轉スルモ其ノ烟突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色形象一箇ヲ揭クヘシ

霧中信號

第十五條　航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ

汽船ハ汽笛若ハ汽角

帆船及他船ニ引カレ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ

汽船ハ汽力其他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若ハ汽角ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ置シ且號鐘及汽關ノ作用ニ因リ發聲スル適當ノ霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同樣ノ號鐘及霧中號角ヲ備フヘシ

霧中降雪其ノ他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

一　汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ

二　汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲ヲ二發スヘシ但シ其ノ二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス

三　帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ

四　船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ

五　他船ヲ引キテ運航スル船舶、海底電信線ノ布設若ハ引揚ニ從事スル船舶及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄リ來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲二發スヘシ又他船ニ引カレテ運航スル船舶モ此ノ信號ヲ爲スハ妨ナシト雖他ノ信號ヲ爲スヘカラス（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項改正）

自六項至九項（三十年法律第四十三號ヲ以テ削除）

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必ズシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ其ノ信號ヲ爲サヽルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條　霧中降雪其ノ他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其ノ正横ヨリ前面ニ方リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ

運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其ノ運轉ニ注意スヘシ

航力

衝突ノ危險ハ其ノ現況ニヨリ我船ニ近寄リ來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫知スルヲ得若其ノ方位慣ニ變更スルヲ認メサルトキハ危險アルモノト知ルヘシ

第十七條　二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其ノ一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一　一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二　左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三　一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四　一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受ケル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五　船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條　二艘ノ汽船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ鍼路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限リ適用スヘシ兩船各ト其ノ鍼路ヲ保チテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク眞向又ハ幾ント眞向ニ行逢ヒタルトキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鍼路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス

第十九條　二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切リ衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條　帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十一條　本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ

但シ他船ニ於テ天氣密濃又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

（三十年法律第四十三號ヲ以テ但書追加）

第二十二條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條　本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條　總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラス他船ノ航路ヲ避クヘシ

總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテハ舷燈ヲ見難キ位置ヨリ其ノ船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其ノ追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船ト爲サス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

夜間他船ヲ追越サントスル船舶ニシテ前項ニ記載シタル方位ノ内外ヲ辨知シ難キモノハ本船ヲ追越船ト看做シテ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十五條　汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其ノ中流ノ右側部ヲ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十六條　航行中ノ帆船ハ網或ハ繩ヲ用ヰテ漁業ニ從事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖他船ノ通航スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條　本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其ノ危險ヲ避クル爲臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條　本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ

航行中ノ汽船他船ニ近寄リ鍼路ヲ變セムトスルトキハ汽笛若ハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鍼路ヲ通知スヘシ

短聲一發　我船鍼路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發　我船鍼路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發　我船全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條　本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其ノ他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長海員ニシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條　本法ハ地方長官ニ於テ規定シタル港、川其ノ他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條　危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項改正）

二　萬國船舶信號書ニ掲載スルNC難船信號ヲ表示ス

三　方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス（三十年法律第四十三號ヲ以テ第四項ヲ削除シ第五項ヲ繰上ケ第四項トナス）

夜間信號

一　大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其ノ他ノ爆烈發火信號ヲ一發ス（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項改正）

二　船上ノ發焔（タール桶油樽等ヲ燃燒スルノ類）

三　星火ヲ發スル榴彈或ハ火箭ヲ一次一發ツヽ度々打揚ク（三十年法律第四十三號ヲ以テ本項改正）

四　霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條　本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス

第三十三條　本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

第三十四條　明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

船舶法（三十二年法律第四十六號）

第一條　左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一　日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶

二　日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三　日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四　日本ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス

第二條　日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ揭クルコトヲ得ス

第三條　日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕護ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條　日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス

船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條　日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條　日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ揭ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條　日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ揭ケ且其名稱、船籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條　日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條　船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條　登錄シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ變更ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條　船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同シ

第十二條　船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス

第十三條　日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受クルコト能ハサルトキハ其後最初ニ到著シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ得

第十四條　日本船舶カ滅失若クハ沈沒シタルトキハ、解撤セラレタルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間內ニ抹消ノ登錄ヲ爲シ且遲滯ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六个月間分明ナラサルトキ亦同シ

第十五條　日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域內ニ船籍港ヲ定メタルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十六條　外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條　外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス

日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有效期間ハ六个月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第十八條　船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有效期間滿了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條　第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第三十條　前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓櫂ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫂ヲ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス

第二十一條　前條ニ揭ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測度ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ揭ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ揭ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條　第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス

第二十四條　官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條　第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條　第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條　第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十九條　第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條　第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條　第二十七條ノ規定ハ船泊管理人又ハ商事會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條　管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ留易事務官之ヲ行フ

附則

第三十三條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條　船舶ノ登記ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條　商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條　明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條　本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條　本法施行ノ際登簿船假免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條　第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知リタルトキハ雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條　本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六ヶ月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

●船員法（三十二年法律第四十七號）

第一章　總則

第一條　本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條　本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章　船員手帖

第三條　日本ニ於テ船員ヲ爲ラント欲スル客ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其地ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

一　氏名

二　本籍地

三　身分

四　出生ノ年月日

第四條　未成年者カ船員ヲ爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條　船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條　外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ日ヨリ一ヶ月內ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條　船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキハ又同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月內ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滯ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滯ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條　船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到著シタル後遲滯ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條　第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條　船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章　船長

第十三條　船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條　船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條　船舶カ港灣ヲ出入スルトキ、狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條　日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間內ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閱ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間內ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出願シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一　豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二　人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三　衝突其他ノ海難ヲ生シタルトキ

四　船舶カ捕獲セラレタルトキ

五　船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ揭ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出願シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條　前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條　船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條　船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條　船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條　海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺產ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條　外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日

本ニ送還スベキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條　船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乘込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遅滯ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條　船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章　海員

第二十六條　海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條　管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項カ當事者雙方ニ認聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ拇印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セズ又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ拇印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條　當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限リ代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條　公認アリタルトキハ海員ハ遅滯ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條　海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ强制スルコトヲ得

第三十一條　船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條　海員カ雇入期間中脫船シタルトキハ船長ハ遅滯ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條　海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條　海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作リ之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ海員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條　海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五章　紀律

第三十六條　左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一　海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二　海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三　海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四　海員カ喧爭シタルトキ

五　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ

六　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八　海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

十　海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

十一　其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條　懲戒ハ左ノ四種トス

一　監禁

二　上陸禁止

三　加役

四　減給

第三十八條　監禁ハ三日以下トシ航中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條　前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條　懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條　海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條　海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條　船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乘船ヲ强制スルコトヲ得

第四十五條　船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章　罰則

第四十六條　詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條　第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條　虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ增減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ揭ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二　船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三　船長カ商法第五百六十二條條一項第二號乃至第五號ニ揭ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四　船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條　左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　船長カ商法第五百六十一條ノ檢査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二　船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ

三　船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ

四　船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條　船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條　船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條　船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條　船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條　船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條　第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條　船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條　船舶所有又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條　船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條　船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條　海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乘込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條　船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條　船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脫船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條　船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條　海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條　故ナク船體若クハ機關要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條　船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆沒シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條　海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
刑法第三百二十九條ノ規定ハ前條ノ場合ニハ之ヲ適用セス
第七十條　海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十一條　船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス
第七十二條　海員カ相鬩興シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ
一　職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
二　脫船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
三　第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十三條　船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆沒シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十四條　本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條　本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得
第七十六條　明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第七十七條　船員ハ本法施行ノ日ヨリ六个月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滯ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
第七十八條　從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六个月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス
前項ノ期間內ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス
第七十九條　本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第八十條　本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

●石數ヲ以テ積量表示スル船舶ニ關シ船員法施行ノ件

（三十二年勅令第二百四十一號）

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ明治三十四年七月一日ヨリ船員法ヲ施行ス

●船員手帖ノ交付、訂正又ハ書換等ニ關スル手數料ノ件

（三十二年勅令第二百四十三號）

船員手帖ノ交付、訂正又ハ書換其ノ他船員法ノ規定ニ依リ認證、公認又ハ公認ノ認證ヲ申請スル者ハ逓信大臣ノ定ムル所ニ從ヒ手數料ヲ管海官廳ニ納付スヘシ

船員手帖ノ交付又ハ書換ニ關スル手數料ヲ除ク外前項ノ手數料ハ市町村長ニ於テ管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテハ市町村ノ收入トス戶長又ハ之ニ準スヘキ者管海官廳ノ事務ヲ行フ場合ニ在リテ國庫ヨリ其ノ役場ノ經費ヲ支辨セサルトキ亦同シ

船舶積量測度規則（十七年第十號布告）

第一條　凡ソ船舶（海軍艦船ヲ除ク）ノ積量ハ此規則ニ依リ測度スル者トス

第二條　船舶ノ積量ヲ測度スルハ總テ曲尺ヲ用ヒ尺位ヲ以テ單位トシ其尺度ハ分位ニ止ムヘシ

第三條　西洋形船ノ積量ハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ日本形船ノ積量ハ十立方尺ヲ以テ一石トス

第四條　西洋形船ニシテ甲板一層ノ者ハ其甲板ヲ以テ量噸甲板トシ二層ノ者ハ其上層ヲ以テ量噸甲板トシ三層以上ノ者ハ其最下ヨリ第二層ニアル者ヲ以テ量噸甲板トス

第五條　西洋形船ニシテ甲板一層若クハ二層ノ者ハ量噸板下ノ噸數ニ量噸甲板上諸室ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トシ又甲板三層以上ノ者ハ量噸甲板下ノ噸數ニ量噸甲板上各甲板間ノ噸數及ヒ最上甲板諸船ノ噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

甲板ナキ者ハ舷端以下ノ噸數ヲ以テ該船ノ總噸數トシ又舷端以上ニ船室アレハ其噸數ヲ合セテ之ヲ該船ノ總噸數トス

第六條　汽船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室及ヒ機關室ノ噸數ヲ除キタル者トス

帆船ノ登簿噸數ハ總噸數ヨリ乘組人常用室ノ噸數ヲ除キタル者トス

第七條　乘組人常用室トシテ除クヘキ噸數ハ總噸數ノ百分ノ六トス

第八條　機關室トシテ除クヘキ噸數ノ割合ハ左ノ如シ

外車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ二十ヨリ三十マテハ總噸數ノ百分ノ三十七

暗車汽船機關室ノ噸數該船總噸數ノ百分ノ十三ヨリ二十マテハ總噸數ノ百分ノ三十二

機關室ノ廣狹ニ依リ前項ノ割合ニ適セサル者ハ該室ノ噸數ニ外車汽船ナレハ其二分ノ一ヲ加ヘ暗車汽船ナレハ其四分ノ三ヲ加ヘタル者トス

第九條　日本形同漕船ハ船梁上下船艙ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トシ又其構造同漕船ニ異ナル者ハ舷端以下ノ石數ヲ以テ該船ノ積石トス

第十條　船舶ノ噸數及ヒ積石測度ノ方法ハ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

船舶檢査法（二十九年法律第六十七號）

第一條　日本船舶ハ左ニ記載スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規程ニ依リ檢査ヲ受クヘシ

一　海軍艦船艇

二　登簿噸數十五噸未滿若ハ積石數百五十石未滿ノ帆船

三　湖川其ノ他靜穩ノ海上ヲ航行スル船舶

四　櫓櫂ノミヲ以テ航行スル船舶

第二條　此ノ法律ニ依リ檢査ヲ受クヘキ汽船ハ遠洋航船、近海航船、沿海航船、平水航船ノ四種トシ帆船ハ遠洋航船近海航船ノ二種トス

第三條　船舶ノ檢査ハ船舶ヲ日本船舶トシテ初メテ航行ノ用ニ供スルトキ其ノ航行期間滿了ノトキ及航行期間內特ニ必要アルトキ之ヲ行フ

第四條　船舶ノ航行期間ハ船舶ニ在テハ三箇月以上一箇年以內、帆船ニ在テハ六箇月以上三箇年以內

トス

第五條　登簿噸數十五噸以上若ハ積石數百五十石以上ノ船舶ノ檢査ハ其ノ所在地ヲ管轄スル船舶司檢所之ヲ行ヒ登簿噸數十五噸未滿ノ汽船ノ檢査ハ其ノ仕出地ノ地方官廳之ヲ行フ

第六條　檢査官吏船舶ヲ檢査シ遞信大臣ノ定ムル檢査規程ニ適合スルモノト認ムルトキハ本船ノ航路程限旅客定員汽壓制限及航行期間ヲ定メ管轄官廳ヨリ船舶檢査證書ヲ交付スヘシ

第七條　檢査ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ船長ニ於テ船舶檢査證書ノ受有前ニ船舶ヲ航行ノ用ニ供セムトスルトキハ檢査官吏ハ其ノ請求ニ依リ假證書ヲ交付シテ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條　檢査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨視シ若特ニ檢査ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ其ノ航行ヲ停止スルコトヲ得

第九條　船舶ノ檢査ニ對シ不服アル者ハ其ノ事由ヲ具シ遞信大臣ニ再檢査ヲ申請スルコトヲ得

再檢査ヲ申請シタル者ハ其ノ決定前船舶ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得

第十條　遞信大臣ノ特ニ定ムル場合ノ外船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受有セスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ船舶檢査證書若ハ假證書ニ記載スル船舶ノ航路定限、航行期限ヲ超エテ航行シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ船舶檢査證書若ハ假證書ヲ受ケ又ハ汽壓制限ヲ超エテ船行シ又ハ檢査官吏ノ臨視ヲ拒ミ又ハ航行停止ノ命ニ違背シ又ハ必要ナル屬具ノ整備ヲ爲サスシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタル者亦同シ

船舶檢査證書若ハ假證書ニ記載スル旅客定員ヲ超エテ旅客ヲ搭載シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

前條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締役若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

第十二條　船舶ノ航路定限、航行期間、旅客定員及汽壓制限ニ關スル規程其ノ他此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附　則

第十三條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十四條　明治十七年第三十號布告西洋形船舶檢査規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十五條　明治十七年第三十號布告西洋形船舶檢査規則ニ依リ交付シタル船舶檢査證書ハ其ノ有效期間滿了マテ效力ヲ有ス

第十六條　此ノ法律施行ノ際現存スル積石數百五十石以上ノ帆船ハ遞信大臣ノ定ムル順序ニ依リ漸次檢査ヲ受クルマテ船舶檢査證書ヲ受有セスシテ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

第十七條　此ノ法律ハ外國ノ船籍ニ屬スル船舶ヲ借入レ帝國各港ノ間又ハ帝國ト帝國トノ間ニ於テ航行ノ用ニ供スル者ニモ亦之ヲ適用ス

●西洋形船大小砲設備ヲ許ス　（八年第九十八號布告）

海軍官船ヲ除ノ外西洋形船ヘ賊難防禦ノ爲大小砲設備ノ儀差許候條左ノ通可相心得此旨布告候事

第一條　海軍官船ヲ除ノ外諸省「使」府縣所轄ノ西洋形官船并ニ人民所持ノ西洋形商船ヘ大砲口徑四寸

以内二門小銃三十挺設備スル事苦シカラス

但船ノ噸數ニ由リ本文ニ掲クル銃砲ノ數ヲ減スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ任スト雖モ若シ増置セントスルトキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條　（十七年第三十一號布告火藥取締規則ニ依リ消滅）

第三條　船内ハ銃砲ヲ設備スルトキ省〔使〕ハ〔正院〕ヘ上請シ府縣ハ内務省ヘ申出許可ヲ受クヘシ

但人民所持船ノ分ハ其管轄廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨内務省ヘ屆出ヘシ

第四條　銃砲ノ設備ヲ許可セシトキハ其旨海軍省ヘ通知スヘシ

人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ

第五條　諸省〔使〕府縣并ニ人民ニ於テ外國ヨリ買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ルヘシ

但銃砲〔彈藥〕買入ル、節ハ明治五年〔五月〕第三十八號布告銃砲取締規則ニ從フヘシ

船舶職員法（二十九年法律第六十八號）

第一條　日本船舶ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ

船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條　海技免狀ヲ有スル者ニアラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス

第三條　海技免狀ハ左ノ十二種トス

甲種船長

甲種一等運轉士

甲種二等運轉士

乙種船長

乙種一等運轉士

乙種二等運轉士

丙種船長

丙種運轉士

機關長

一等機關士

二等機關士

三等機關士

第四條　各船舶ニ乘組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第五條　海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試驗規程ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シ且海員名簿ニ登錄ヲ受ケタル者ニ授與ス

海軍艦船艇ニ乘組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ海員試驗規程ニ合格スト認ムル者ニハ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條　左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ海員試驗ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス

一　公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者

二　家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

三　瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者

四　海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者

第七條　高等ノ免狀ハ下等免狀ニ代用スルコトヲ得

甲種船長ノ免狀ハ他ノ船長及運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種一等運轉士ノ免狀ハ他ノ運轉士ノ免狀ニ對シ、甲種二等運轉士ノ免狀ハ乙種各運轉士及丙種運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種一等運轉士ノ免狀ハ乙種二等運轉士ノ免狀ニ對シ、乙種船長ノ免狀ハ乙種各運轉士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

機關長ノ免狀ハ一等機關士以下ノ免狀ニ對シ、一等機關士ノ免狀ハ二等機關士以下ノ免狀ニ對シ、二等機關士ノ免狀ハ三等機關士ノ免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス

第八條　左ニ揭クル者ハ二十圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ニ違背シ相當ノ船舶職員ヲ乘組マシメサル者

二　第二條及第四條ニ違背シ相當ノ海技免狀ヲ受有セスシテ船舶職員ト爲リタル者

三　第六條ニ違背シ船舶職員ト爲リタル者

四　海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者

五　海技免狀行使ノ假停止若ハ差押ヲ受ケ其ノ職務ヲ執リタル者

第九條　前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

前條ノ罰制ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員取締若ハ使用人ニ之ヲ適用ス

附則

第十條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第十一條　明治十三年第二十八號布告及明治十四年第七十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第十二條　明治九年第八十二號布告、同年第九十四號布告及明治十四年第七十五號布告ニ依リ授與シタル免狀ハ第二號表ニ依リ各相當ノ免狀ト交換スヘシ其ノ交換ノ手續及時期ハ遞信大臣之ヲ定ム

前項ニ揭ケタル各種ノ舊免狀ハ新免狀ト交換スルマテ之ニ代用スルコトヲ得

第十三條　此ノ法律ハ施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ積石數百五十石以上帆船ニハ之ヲ適用セス

第十四條　遞信大臣ハ積石數百五十石以上ノ帆船ニ乘組ミ三箇年以來其ノ運航ヲ掌リ且此ノ法律施行ノ際現ニ船長ノ職ヲ執リ年齡二十歲以上ノ者ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ試驗ヲ用ヰスシテ相當ノ海技免狀ヲ授與スルコトヲ得

第十五條　遞信大臣ハ第一號表中近海航船ニシテ登簿噸數五百噸未滿ノ汽船及沿海航船ニシテ登簿噸數二百噸以上ノ汽船ニハ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年ヲ限リ二等機關士ノ免狀ヲ有スル者ニ機關長ノ職ヲ執ラシメ又一等機關士ヲ乘組マシメサルコトヲ得

（第一第二號表略之）

◎海員懲戒法（二十九年法律第六十九號）

第一章　總則

第一條　海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ

一　正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
二　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
三　過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
四　海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
五　海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又船客乘組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
六　職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
七　乱醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

第二條　微戒ハ左ノ三種トス
一　免狀行使ノ禁止
二　免狀行使ノ停止
三　譴責

第三條　前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條　免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條　海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス
一　確定裁決
二　時效

第一條各號ニ該當スル者ハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條　時效ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條　海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章　海員審判所ノ組織及管轄

第八條　海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス
地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

第九條　海員審判所ニハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク
審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員竝其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條　地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條　審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス
同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス

第十三條　地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘ

シ

高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便益ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ該事件ハ移付ヲ受ケタル地方海員審判所ノ管轄權ニ屬ス

第十四條　高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一　權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ

二　二以上ノ地方海員審判所審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章　審判前ノ手續

第十五條　船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十六條　領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ

第十七條　理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證憑ヲ集取シ又必要ニ應シ實地臨檢スルコトヲ得

第十八條　理事官ハ職權ヲ以テ審判開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ストキハ證憑其ノ他必要ノ書類ヲ添付スヘシ

第四章　地方海員審判所ノ審判

第十九條　地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條　地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其下調ヲ命スヘシ

第二十一條　下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ拘引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條　被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條　被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條　受命審判官下調ヲ終タルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條　地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

第二十七條　審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條　第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條　開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條　被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條　理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條　被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條　地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條　刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス

被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條　理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條　地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條　裁決ニハ其ノ理由及證憑ヲ明示スヘシ

第三十八條　裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ

第五章　高等海員審判所ノ審判

第三十九條　理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第四十條　控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス

闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條　控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ

原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條　高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條　高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ

控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章　執行處分

第四十四條　懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

第四十五條　免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ

免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ

免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無效ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章　罰則

第四十六條　海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條　證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條　此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條　海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條　此ノ法律施行ノ際四洋形船船長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

●水先法（三十二年法律第六十三號）

第一條　水先人ハ水先免狀ヲ有スルコトヲ要ス

水先人ニアラサル者ハ水先區ニ於テ船舶ノ水路ヲ嚮導スルコトヲ得ス

第二條　水先免狀ハ左ノ條件ヲ具備スル者ニ授與ス

一　帝國臣民ナルコト

二　主務大臣ノ定ムル試驗規定ニ依リ試驗ニ合格シタルコト

三　水先人名簿ニ登錄セラレタルコト

第三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ水先人タルコトヲ得ス

一　滿二十年ニ達セサル者及滿六十年以上ノ者

二　剝奪公權者

三　家資分散者及破産者

四　瘋癲白痴若身體不具又ハ羸弱ニシテ業務ヲ營ムニ不適當ナル者

五　水先免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者

第四條　水先人ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

一　公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキ

二　水先免狀ノ行使ヲ停止若ハ假停止セラレ又ハ之ヲ差押ヘラレタルトキ

第五條　水先人其ノ業務ニ從事スルトキハ水先免狀及水先法令書ヲ携帶スヘシ

水先人ハ當該官吏若ハ公吏ノ命令ニ依リ又ハ水先人ヲ要招シタル船長ノ要求ニ依リ水先免狀又ハ水先法令書ヲ開示スヘシ

第六條　水先人其ノ業務ニ從事スル爲水先船ニ乘込ミタルトキハ晝間ニ在テハ水先旗ヲ揭揚シ夜間ニ在テハ海上衝突豫防法第八條ノ規定ニ依ルヘシ

第七條　水先人ヲ要招セシトスルトキハ船長ハ水先信號ヲ爲スヘシ

第八條　水先人水先信號ヲ認メタルトキハ直ニ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタルトキハ水先人ハ自己ニ最モ近キ船舶ノ要招ニ應スヘシ

二艘以上ノ船舶ニ於テ同時ニ水先信號ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ中ニ危難ニ罹リタル船舶アルトキハ水先人ハ前項ノ規定ニ拘ハラス該船舶ノ要招ニ應スヘシ

第九條　二人以上ノ水先人同時ニ要招ニ應シタルトキハ其ノ何レヲシテ水路ヲ導セシムヘキカハ船長ノ選擇スル所ニ依ル

第十條　水先人水先船ヲ去リタルトキハ水先旗ヲ撤去スヘシ

第十一條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ其ノ氏名及水先人タルコトヲ船長ニ告知スヘシ

第十二條　水先人水路ヲ導スヘキ船舶ニ乘込ミタルトキハ船長ハ水先信號ヲ撤去シ船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名、船籍港、積量及喫水ヲ水先人ニ告知シ且水先人ノ要求アルトキハ其ノ證明書類ヲ開示スヘシ

第十三條　水先人ハ同時ニ二艘以上ノ船舶ノ水路ヲ導スルコトヲ得ス但シ船舶運航ノ自由ヲ得ス又ハ水先人ヲ得ル能ハサル爲其ノ船舶ト水路ヲ導スヘキ船舶ト曳綱ヲ以テ聯結セラレタルトキハ此ノ限ニアラス

第十四條　水先人水路ヲ導シタルトキハ船長ニ對シ水先案内料ヲ請求スル權利ヲ有ス

前條但書ノ場合ニ於テハ水先人ハ各艘ノ船舶ニ付前項ノ權利ヲ有ス

第十五條　水先案内料ハ命令ヲ以テ定ムル額ヲ超過スルコトヲ得ス

第十六條　水先人ハ水先修業生一名ニ限リ水路ヲ導スヘキ船舶ニ之ヲ伴フコトヲ得但シ二名以上ヲ伴ハントスルトキハ船長ノ承諾ヲ經ヘシ

第十七條　水先區、水先旗ノ樣式及水先信號ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　主務大臣ハ水先區ヲ指定シテ水先人ノ員數ヲ制限シ水先人組合ヲ設ケシメ又ハ水先船ノ免狀及艤裝ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

水先人組合ハ規約ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　水先人其ノ業務ニ從事スルニ當リ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ海員審判所ハ裁決ヲ以テ之ヲ懲戒ス

一　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ船舶ニ損害ヲ加ヘ又ハ之ヲ沈沒セシメタルトキ
二　過失、懈怠又ハ不當ノ行爲ニ因リ人ヲ死亡ニ致シタルトキ
三　業務ヲ怠リ又ハ業務上ノ義務ニ違反シタルトキ
四　亂醉、粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ

水先人組合ニ屬スル水先人其ノ組合規約中命令ノ規定ニ依リ懲戒ニ付スヘキ事項ニ違反シタルトキ亦前項ニ同シ

第二十條　前條ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ノ管轄ハ其ノ水先人ノ住所ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

前項ノ事件海員懲戒法ノ規定ニ依リ審判ニ付スヘキ事件ト關聯スルトキハ前項ノ管轄ハ海員懲戒法ニ依ル事件ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第二十一條　水先人ノ懲戒ニ關シ此ノ法律ニ規定ナキモノニ付テハ海員懲戒法ノ規定ヲ準用ス

第二十二條　水先人其ノ業務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上六百圓以下ノ罰金ニ處ス

水先人ニアラサル者水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シ因テ船舶ヲ毀損シ若ハ之ヲ沈沒セシメ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ亦前項ニ同シ

第二十三條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上二百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第四條ノ規定ニ違反シテ水先人ノ業務ヲ營ミタル者及之ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタル者
二　第八條第二項第三項又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタル者
三　第十五條ノ規定ニ違反シテ水先案内料ヲ授與シタル者
四　水先免狀ヲ貸付シ之ヲ得使セシメタル者
五　詐僞ノ目的ヲ以テ船舶ノ喫水若ハ積量ニ付水先人ニ對シ不實ノ告知ヲ爲シ又ハ喫水ノ標識ヲ變更シタル者
六　水路ノ嚮導ヲ要求セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサル者又ハ之ニ應シタルモ正當ノ理由ナクシテ水路ヲ嚮導セサル者
七　水路ノ嚮導ヲ要求シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ水先人ナシテ水路ヲ嚮導セシメス又ハ正當ノ理由ナクシテ水先人ヲ水先區外ニ伴ヒタル者
八　水先人ニアラスシテ水先區ニ於テ水路ヲ嚮導シタル者

第二十四條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第五條第六條第十條第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ違反シタル者
二　水先人ヲ要招スル爲ニアラスシテ水先信號又ハ之ト錯誤シ易キ信號ヲ爲シタル者
三　水先人第十六條ノ規定ニ依リ水先修業生ヲ伴ヒタル場合ニ於テ之ヲ拒ミタル者又ハ同條但書ノ規定ニ違反シテ水先修業生ヲ伴ヒタル者
四　第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ水先船ヲ艤裝セス又ハ水先船免狀ヲ有セスシテ水先船ヲ使用シタル者
五　水先人ニアラスシテ水先旗若ハ之ト誤認シ易キ旗ヲ舶船ニ掲揚シ又ハ海上衝突豫防法第八條ノ點燈及信號ヲ爲シタル者

六　水先人ニアラスシテ第十八條第一項ニ依リ定ムル規定ニ從ヒテ艤裝シタル水先船又ハ之ト誤認シ易キ船舶ヲ使用シタル者

第二十五條　船長水先區ニ於テ水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルトキハ命令ヲ以テ定メタル當該水先區ノ水先案内料ト同額以上二倍以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　水路ヲ嚮導セシメサレハ航行危險ナル場合ニ於テ水先人ヲ得ル能ハサルカ爲水先人ニアラサル者ヲシテ水路ヲ嚮導セシメタルモノナルトキハ前條及第二十三條第八號ノ規定ヲ適用セス

第二十七條　此ノ法律中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代ハリテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

附　則

第二十八條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條　明治十一年第三十七號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十條　明治十一年第三十七號布告ニ依リテ授與シタル水先免狀ハ主務大臣ノ定ムル所ニ從ヒ此ノ法律ニ依リ授與スル水先免狀ト交換ス

前項ノ交換ヲ了スルマテハ舊水先免狀ハ該免狀ニ記載スル水先區中此ノ法律ニ依リテ定メタル水先區ニ該當スル部分ニ限リ之ヲ代用スルコトヲ得

舊水先免狀ヲ有スル者第三條ノ各號ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ヲ適用セス

第三十一條　此ノ法律施行前ヨリ其ノ施行後マテ引續キ水路ヲ嚮導スル場合ニ於テハ水先案内料ハ明治十一年三十七號布告ニ依リテ之ヲ算定スヘシ

第三十二條　第十九條第二十條及第二十一條ノ規定ハ左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テ亦之ヲ適用ス

一　明治十一年第三十七號布告ニ依リテ審問ヲ要スルモノニシテ此ノ法律ニ依リ懲戒スヘキ行爲此ノ法律施行ニ發生シ其ノ施行後ニ至リテ發覺シタルトキ

二　前號ノ行爲此ノ法律施行ノ際審問中ナルトキ

第三十三條　此ノ法律施行後五年間ヲ限リ主務大臣ハ第二條第一號ノ規定ニ拘ラス水先免狀ヲ授與スルコトヲ得

前項ニ依リ授與シタル水先免狀ハ前項ノ期間滿了ノ後ト雖其ノ效力ヲ失フコトナシ

●内國郵船ニ乘組旅行ノ者姓名登記方（九年第三十一號布告）

内國郵船ニ乘組旅行致候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之樣可致此旨布告候

●海外旅行手續（十一年第九號布告）

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀及同九年（十月）第百二十八號布告中海外行免狀ノ廉ハ廢止候條自今外務省本年二月第一號布達海外旅券規則ニ照準スヘシ此旨布告候事

●海外旅券規則（十一年外務省第壹號布達）

旅券ハ日本國民タルヲ證明スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少カラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第一條　旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ海港場官廳ヘ願出之ヲ受取ルヘシ右郵便ヲ以テスルモ苦シカラス旅券ヲ受取ラハ直ニ其示シアル所ヘ當人姓名ヲ自記スヘシ

第二條　旅券ヲ受クルモノハ手數料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ但旅券ハ一人一枚ニ限ルヘシ若シ五歲

以下ノ小兒其父母同道ナルトキハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ足レリトス

第三條　內地ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ海外ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國在留ノ日本公使館又ハ領事館ヘ其趣ヲ記載セル書面ヲ出タシ自身出頭シテ願ヒ受クヘシ但其手數料トシテ金貳圓ヲ納ムヘシ

第四條　公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ內地ニアリテハ其官廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣ニ從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ但手數料ハ納ムルニ及ハス

第五條　旅券ハ其趣クヘキ國ノ公使又ハ領事ノ證明ヲ得ル儀其國ニヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ但其規定ニ隨ヒ手數料ヲ拂フヘキモノトス

第六條　海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスルアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘシ但領事官ナキ地ニ於テハ公使館ニ到リテ之ヲ請フヘシ

第七條　旅券ハ歸朝ノ後三十日以內ニ其最初受取リタル官廳ヘ之ヲ返納スヘシ郵船等ノ海員常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニ在ラス但シ海外ニアリテ我公使又ハ領事官ヨリ受取タル者ハ外務省ニ返納スルヲ以テ足レリトス

（旅券願雜形略之）

●航海奬勵法（二十九年法律第十五號）

第一條　帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登錄シタル船舶ヲ以テ帝國ト外國トノ間又ハ外國諸港ノ間ニ於テ貨物、旅客ノ運搬ヲ營業トスル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ船舶ニ對シ航海奬勵金ヲ下付ス

第二條　此ノ法律ニ依リ航海奬勵金ヲ受クヘキ船舶ハ總噸數一千噸以上ニシテ一時間十海里以上ノ最強速力ヲ有シ遞信大臣ノ定ムル造船規程ニ合格シタル鐵製ハ又鋼製汽航ニ限ル

第三條　航海奬勵金ヲ受ケムトスル船舶ノ所有者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ遞信大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第四條　左ノ船舶ハ航海奬勵金ヲ受クルコトヲ得ス

第一　此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登錄ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二　製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第三　帝國政府ノ命令ニ依レル船路ニ使用スル船舶

第五條　航海奬勵金ハ總噸數一千噸ニシテ一時間十海里ノ最強速力ヲ有スル船舶ニ對シ總噸數一噸航海里數一千海里ニ付二十五錢ヲ支給シ總噸數五百噸ヲ增ス毎ニ其ノ百分ノ十、最強速力一時間一海里ヲ增ス毎ニ其ノ百分ノ二十ヲ增給ス但シ總噸數六千五百噸以上又ハ最強速力一時間十八海里以上ノ船舶ニ對シテハ總噸數六千噸又ハ最強速力一時間十七海里ノ船舶ニ對スル割合ニ依リ支給ス

航海奬勵金ハ製造後五箇年ヲ經過セサル船舶ニ對シテハ金額ヲ支給シ五箇年ヲ經過シタル船舶ニ對シテハ一年毎ニ其ノ百分ノ五ヲ減ス

航海奬勵金ヲ算定スルニハ一噸未滿一海里未滿ノ端數ヲ算入セス

第六條　航海里數ハ各港間ノ最近航路ニ依リ之ヲ算定ス

帝國各港ヘ寄港シ外國ヘ發航スル船舶ニ在テハ最終ノ寄港地ヲ起點トシ又外國ヨリ發航シ帝國各港ニ寄港スル船舶ニ在テハ最初ノ寄港地ヲ終點トシテ其ノ航海里數ヲ算定ス

航海里數ヲ證明スルニハ寄港地官廳ノ寄港證明ヲ以テスヘシ

第七條　遞信大臣命令ヲ發シ相當ノ金額ヲ給與シテ第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ヲ公用ノ爲ニ使用スルコトヲ得

船舶所有者前項ノ給與金額ニ對シ不服アルトキハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ出訴ハ使用ヲ停止セス

第八條　第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ命令ニ依リ左ノ割合以内ニ於テ其ノ費用ヲ以テ航海修業生ヲ該船舶ニ乘組マシメ同大臣ノ定ムル手當ヲ支給スヘシ

總噸數一千噸以上二千五百噸未滿　二人

總噸數二千五百噸以上四千噸未滿　三人

總噸數四千噸以上　四人

第九條　第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國人ヲ其ノ本支店ノ事務員若ハ該船舶ノ職員ト爲スコトヲ得ス但シ外國ニ於テ死亡其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ船舶職員ニ缺員ヲ生シタルトキハ該地官廳ノ公認ヲ經テ之ヲ補フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該船舶ノ所有者又ハ船長ヨリ直ニ遞信大臣ノ許可ヲ請フヘシ

第十條　第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者航海奬勵金ヲ受ケ航海スル場合ニ於テハ遞信大臣ノ命令ニ從ヒ該船舶ニ郵便吏員ヲ無賃乘船セシメ及該船舶ヲ以テ郵便物、小包郵便物、郵便用品及小包郵便用品ヲ無料ニテ遞送スヘシ

第十一條　第三條ノ認許ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ航海奬勵金ヲ受ケ航海スル期間並其ノ航海ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、貸渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル航海奬勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　遞信大臣ハ此ノ法律ニ依リ船舶所有者ノ義務ニ關スル事項ニ付テハ直ニ其ノ代人若ハ船長ニ命令ヲ下スコトヲ得

第十三條　詐僞ノ所爲ヲ以テ航海奬勵金ヲ受ケタル者又ハ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十四條　此ノ法律ニ依リ遞信大臣ノ發スル命令又ハ第九條ノ規程ニ違背シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十六條　詐僞ノ所爲ヲ以テ航海奬勵金ヲ受ケタル者ハ其ノ因テ得タル金額ヲ償還セシメ第十一條ノ規程ニ違背シタル者ハ其ノ既ニ受ケタル航海奬勵金ヲ償還セシム

第十七條　船舶所有者此ノ法律ヲ犯シタルトキハ遞信大臣ハ航海奬勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得第十二條ノ場合ニ於テ其ノ代人又ハ船長ノ犯シタルトキ亦同シ

第十八條　前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ揭クル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十九條　此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十八箇年間之ヲ施行ス（同上）

●造船奬勵法　（二十九年法第律十六號）

第一條　帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ遞信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船奬勵金ヲ下付ス

第二條　此ノ法律ニ依リ造船奬勵金ヲ受クヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ヲ有シ遞信大臣ノ認ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル

第三條　造船奬勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未滿ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ增給ス但シ帝國內ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖豫メ遞信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ

第四條　造船奬勵金ヲ受クヘキ船舶ノ船體及機關ニハ遞信大臣ノ定ムル規程ニ依ルノ外外國製品ヲ供用スルコトヲ得ス

第五條　詐僞ノ所爲ヲ以テ造船奬勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船奬勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第六條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第七條　前二條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第八條　此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

●船舶登記規則　（三十二年勅令第二百七十號）

第一章　總則

第一條　不動產登記法第二條乃至第七條、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第百一條、第百二條、第百八條、第百十七條、第百十九條、第百二十條、第百二十二條乃至第百二十七條、第百四十一條、第百四十二條、第百四十四條乃至第百四十八條及ヒ第百五十條乃至第百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス

第二章　登記所

第二條　此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船籍港ヲ管轄スル區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

船籍港カ數箇ノ管轄地ニ跨カルトキハ司法大臣管轄登記所ヲ指定ス

第三條　登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第三十條ノ規定ニ依ル抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ通知スルコトヲ要ス

管海官廳ハ第十六條ニ揭ケタル事項又ハ船籍港ノ變更アリタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ登記所ニ通知スルコトヲ要ス

第三章　登記簿

第四條　登記簿ハ船籍港毎ニ別冊ト爲ス

第五條　登記簿ハ一艘ノ船舶ニ付キ一用紙ヲ備フ

第六條　登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚ホ表題部ニ表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各船舶ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ第十六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シタル順序ヲ記載ス及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第四章　登記手續

第一節　通則

第七條　登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請スル場合及ヒ第十一條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニ登記證書ヲ添附スルコトヲ要ス

第八條　申請書ニハ左ノ事ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類、名稱及ヒ積量

二　船籍港

三　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第九條　登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ番記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記濟ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス

第十條　登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ碇船スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ區裁判所ハ裁判ヲ爲ス前船長ヲ訊問スルコトヲ要ス

第十一條　所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セスシテ登記ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條　登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移ストキハ順位番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第十三條　特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シ之ニ本登記濟證ヲ

與フヘキ旨ヲ通知シ若シ第四十五條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

不動産登記法第七十五條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二節　所有權ニ關スル登記手續

第十四條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ書面ニ依リ自己カ所有者タルコトヲ證スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

不動産登記法第百七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ管海官廳ヨリ交付シタル船舶件名書ノ謄本及ヒ次條第一項第八號竝ニ第二項第四號、第五號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

日本ニ於テ製造シタル船舶ニ付キ始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其船舶ノ製造地ヲ管轄スル登記所ノ特別登記簿ノ謄本又ハ特別登記簿ニ其船舶ニ關スル登記ナキコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十六條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類及ヒ名稱

二　國籍取得ノ年月日但日本ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此限ニ在ラス

三　外板ノ材料

四　船骨ノ材料

五　檣ノ數

六　總噸數

七　登簿噸數

八　進水年月日

汽船ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一　汽機ノ種類及ヒ數

二　汽鑵ノ種類及ヒ數

三　推進器ノ種類

四　汽機製造ノ年月日

五　汽鑵製造ノ年月日

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ總噸數及ヒ登簿噸數ニ代ヘテ積石數ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條　始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記官吏カ其登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ヲ作リ之ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱竝ニ積量船籍港及ヒ第九條ニ掲ケタル事項ヲ記載シ登記所ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第十八條　所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ日本人ナルコトヲ證スル戸籍吏ノ書面其他之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第十九條　所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ商事會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ

其本店又ハ主タル事務所ノ所在地及ヒ船舶法第一條ニ掲ケタル社員無限責任社員、取締役、業務擔當社員若クハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證及ヒ此等ノ者カ日本人ナルコトヲ證スル戸籍吏ノ書面其他之ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同一ノ登記所ニ於テ既ニ商法第五十一條乃至第五十三條、第百七條、第百四十一條、第二百四十二條、舊商法第百三十八條又ハ民法第四十六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前項ニ定メタル登記ノ謄本、抄本又ハ登記濟證ヲ添附スルコトヲ要セス

第二十條　始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及ヒ船舶管理人ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶所有者カ其所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十一條　第十六條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有者カ船籍港ヲ變更シタルトキハ所有權ノ登記名義人ハ遲滯ナク其登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ同一ノ船舶ノ登記用紙ニ抵當權又ハ賃借權ノ登記アルトキハ申請書ニ其登記名義人ノ承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第二十二條　第十六條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中表示欄ニ變更後ノ事項ヲ記載シ表示番號欄ニ番號ヲ記載シ前ノ表示及ヒ其番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

第二十三條　第十六條ニ掲ケタル事項ノ變更ノ登記ノ申請書ヲ受附ケタル時ニ於テ未タ管海官廳ヨリ其事項ニ關スル通知ヲ受ケサルトキ又ハ其申請書ニ記載シタル登記ノ目的カ管海官廳ノ通知ト符合セサルトキハ不動產登記法第四十九條ノ規定ヲ準用ス但登記ノ目的カ申請書ニ添附シタル船舶原簿ノ謄本又ハ抄本ト符合スルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條　同一ノ登記所ノ管轄內ニ於ケル船籍港變更ノ登記ノ申請アリタルトキハ新船籍港ノ登記簿ニ舊船籍港ノ登記ヲ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其左側ニ舊船籍港ノ表示ヲ爲シ登記番號ヲ記載スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ何船籍港ノ登記簿ニ依リ登記ヲ移シタル旨及申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ前登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第二十五條　船舶所有者カ船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船籍港ノ登記簿及ヒ其附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其謄本ヲ乙登記所ニ提出シテ登記ヲ申請スルコトヲ要ス

前條第二項第三項及ヒ不動產登記法第九條第二項但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス

不動產登記法第四十三條及ヒ第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條　所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス

第八編　船舶登記規則

第二十九條　未登記ノ舶船所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シテ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス

一　船舶カ滅失又ハ沈沒シタルトキ

二　船舶カ解撤セラレタルトキ

三　船舶ノ存否カ六个月間分明ナラサルトキ

四　船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ證スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三節　抵當權及ヒ賃借權ニ關スル登記手續

第三十一條　登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登法記第百十七條ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十二條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ヲ管轄スル登記所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十三條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

一　船舶ノ種類

二　龍骨ノ長サ若シ船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ航ノ長サ

三　計畫ノ幅及ヒ深サ

四　計畫ノ積量

五　製造地

六　造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所

七　不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第三十四條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ證スル造船者ノ書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第三十五條　製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十六條　特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ、表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十七條　製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ所有權ノ登記ヲ爲シタル後其登記用紙ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移ストキハ其登記ノ末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

抵當權ノ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十八條　製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船籍港カ抵當權ノ

登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セサルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移スコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條　船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トス

第四十條　船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當權ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條　第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條　特別登記簿ニ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類名稱竝ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條　第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還附スルコトヲ要ス

第四十四條　第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後遲滯ナク船籍港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十五條　特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏檢印スルコトヲ要ス

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從ヒテ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スマテ登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及ヒ第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條　登記官吏カ貸借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第百二十七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條　既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ貸借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動產登記法第百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第四十八條　此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條　不動產登記法第百六十二條ノ規定ハ明治十年第二十八號布告ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條　不動產登記法第百六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條　船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非スシテ此規則施行前ニ登記セサリシ船舶ニ付テハ船

船法第四條ノ規定ニ依リテ其積量ノ測度ヲ受クルマテハ舊法ノ規定ニ依リテノミ登記ヲ爲スコトヲ得但賃借權ノ船舶ニ付テハ舊船舶用紙ニ丁區番項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條　船舶法第二十條ニ揭ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル質入又ハ書入ノ登記アル場合ニ限リ此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條　此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

●船舶登記取扱手續　(三十二年司法省令第三十五號)

第一條　船舶登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條　船舶共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第三條　船舶特別登記簿ハ附錄第一號雛形ニ準シ船舶特別共同人名簿ハ附錄第二號雛形ニ準シ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條　船舶登記見出帳ハ附錄第三號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條　船舶登記見出帳ニハイロハ順ニ依リ樂メイノ部ヨリスノ部マテヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其船名ノ頭字ニ依リ相當ノ部ニ船舶ノ名稱、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數丁數及ヒ登記番號ヲ記入スヘシ

第六條　受附帳ハ附錄第四號雛形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第七條　登記證書ハ附錄第五號雛形ノ用紙ヲ以テ之ヲ作ルヘシ

第八條　船舶所有者ハ其本籍地又ハ所在地ノ市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其職務ヲ行フ吏員ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ但不動產ノ登記ニ關シ其登記所ニ印鑑ヲ提出シタル者ハ此限ニ在ラス

船舶ヲ所有スル法人ノ代表者ハ法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ船籍港ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ但法人ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト船籍港ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此限ニ在ラス

第九條　印鑑ハ附錄第六號雛形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十條　第八條ノ規定ハ官廳又ハ公署ニハ之ヲ適用セス

第十一條　登記所ニハ登記簿、共同人名簿、見出帳及ヒ受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フ

一　謄本抄本交付帳
二　登記證書交付帳
三　申請書囑託書附屬書類綴込帳
四　受領證原符元帳
五　各種通知簿
六　登記立會調書綴込帳
七　決定原本綴込帳

八　登記簿謄本綴込帳
九　船舶異動通知書綴込帳
十　船舶登記濟通知帳
十一　抗告書類綴込帳
十二　本登記濟證交付帳
十三　印鑑簿

第十二條　登記簿謄本ノ交付又ハ登記簿若クハ附屬書類ノ閲覧ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但閲覧ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

一　船舶ノ種類及ヒ名稱
二　船籍港
三　手數料ノ金額
四　登記所ノ表示
五　年月日

第十三條　登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第十四條　登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一樣式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作リ其末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添附シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ押捺スヘシ

此謄本ハ何船籍港ノ登記簿ニ依リ之ヲ作リ茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證ス

前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ニ之ヲ準用ス但抄本用紙ハ美濃罫紙ヲ用ユヘシ

第十五條　登記ヲ申請スルニハ必要ナル事項ノ外登錄稅額ヲ記載スヘシ

但登錄稅法第三條第一項第一號乃至第十號ノ登記ニ付テハ課稅標準ノ價格ヲモ記載スヘシ

第十六條　登記原因及ヒ登記ノ目的カ同一ニシテ且登錄稅法第三條第二項第七號乃至第十號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テハ數箇ノ登記所ノ管轄内ニ在ル數箇ノ船舶ニ關スル權利ノ登記ヲ申請スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登錄稅ノ全額ヲ納付スヘシ

前項ノ規定ニ從ヒ登錄稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記ヲ申請スヘキ登記所ノ數ニ應シ登錄稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付スヘシ但二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附スヘシ

申請人カ他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附スヘシ

第十七條　船舶登記規則第十條第一條ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ

第十八條　登記證書ヲ交付スルトキハ登記證書交付帳ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱竝ニ船籍港、交付ノ年月日及ヒ申請人ノ氏名ヲ記載シ登記證書ト契印スヘシ

第十九條　船舶登記規則第三條第一項ノ通知ニハ船舶ノ種類、名稱、積量、船舶港、申請書受附ノ年月日、登記ノ目的及ヒ申請人ノ氏名住所ヲ記載スヘシ

第二十條　船舶登記規則第三條第二項ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ受ケタル通知書ハ登記簿ヲ分殿シタル區畫ニ從ヒ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ但便宜ニ依リ之ヲ合記スルコトヲ得

當項ノ手續ヲ爲シタルトキハ見出帳中相當欄ニ其通知書ヲ編移セル船舶異動通知書綴込帳ノ冊數及ヒ丁數ヲ記入スヘシ

第二十一條　管海官廳ヨリ異動ノ通知ヲ受ケタル船舶ニ付キ其移動ニ關シ變更登記ヲ爲サルトキハ見出帳中其移動ニ關シ船舶異動通知書ノ冊數丁數欄ニ爲シタル記入ヲ朱抹スヘシ

第二十二條　登記番號ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ更ニ新ナル番號ヲ附スヘシ

第二十三條　船舶登記規則第五十二條第一項但書ノ規定ニ依リ舊登記簿用紙ニ丁區事項欄ヲ追加スル場合ニ於テハ舊登記用紙中丙區ノ左側ニ附錄第一號雛形中丁區事項欄ノ部分ト同一ノ用紙ヲ貼附シ登記官吏契印スヘシ

第二十四條　不動產登記法施行細則第三條第二項、第三項、第四條、第五條、第十條、第十二條、第十三條、第十五條、第十七條、第十八條、第二十條乃至第二十四條、第二十七條、第二十九條、第三十三條、第三十四條、第三十六條、第三十七條、第三十九條、第四十條、第四十五條乃至第四十七條、第四十九條、第五十一條乃至第六十條、第六十四條乃至第六十七條、第六十九條乃至第七十六條及ヒ商業登記取扱手續第十三條第四十六條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス(附錄略)

●船舶書入質ノ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記取扱手續

(三十二年司法省令第三十六號)

第一條　明治十年第二十八號布告ニ從ヒテ船舶書入質ノ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除ク外船舶登記規則其他船舶ノ登記ニ關スル規程ニ依ル

第二條　前條ノ登記ヲ申請スル者ハ其申請書ニ公證ノ年月日、公證番號及ヒ公證ノ順位ヲ記載シ公證ヲ經タル證書ヲ添附スヘシ

第三條　登記スヘキ權利ノ目的タル船舶ノ表示カ公證ヲ經タル時ト異ナルトキハ申請書ニ新舊ノ表示ヲ爲シ且其異ナル事由ヲ疏明スヘシ

第四條　登記ヲ爲ストキハ丙區事項欄ニ公證ノ年月日、公證ノ番號及ヒ公證ノ順位ヲモ記載スヘシ

第五條　明治三十二年司法省令第十二號公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記取扱手續第五條乃至第八條及ヒ第十條乃至第十五條ノ規定ハ船舶書入質ノ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

●船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ請求等ニ關スル手數料

(三十二年司法省令第三十七號)

第一條　船舶登記簿ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スル者ハ其用紙一枚ニ付キ手數料金拾錢ヲ納ムヘシ

但一枚ニ滿タサルモノト雖モ尙ホ之ヲ一枚ニ計算ス

第二條　船舶登記簿又ハ其附屬書類ノ閲覽ヲ請求スル者ハ手數料金拾錢ヲ納ムヘシ

第三條　船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ請求スル者ハ手數料金五拾錢ヲ納ムヘシ

第四條　特別登記簿ニ船舶ニ關スル登記ナキコトノ證明ヲ請求スル者ハ每一件手數料拾錢ヲ納ムヘシ

第五條　手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

第六條　第一條乃至第四條ノ規則ハ官吏又ハ公吏カ政府ノ利益ノ爲メ其職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セス

第七條　本令ハ船舶登記規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第九編　地方制度

●府縣制（三十二年法律第六十四號）

第一章　總則

第一條　府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條　府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ涉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ市町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　府縣會

第一款　組織及選擧

第四條　府縣會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條　府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬

ヲ加フル毎ニ一人ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ增ス

各選擧區ニ於テ選擧スヘキ府縣會議員ノ數ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第六條　府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選擧權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選擧權及被選擧權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一　其ノ府縣ノ官吏及有給吏員

二　檢事警察官吏及收稅官吏

三　神官僧侶其ノ他諸宗教師

四　小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選擧事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有セス

府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第七條　府縣會議員ハ名譽職トス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　府縣會議員中闕員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選擧ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選擧セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條　町村長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村内ノ選擧人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選擧區ノ選擧人名簿ヲ調製スヘ

シ

第十條　市長ハ毎年九月十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選擧區ノ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條　選擧人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十二條　郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴アルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

選擧人名簿ハ十二月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定名簿ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ據置クヘシ

府縣參事會ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ直ニ之ヲ修正スヘシ

第十三條　府縣會議員ノ選擧ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ選擧區投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選擧ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條　府縣會議員ノ選擧ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條　投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選擧ノ日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日投票所ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無效トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選擧權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登錄スル限ニ在ラス

前項名簿調製ノ期日繼續修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

第十三條　府縣會議員ノ選擧ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ選擧區投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ選擧ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十四條　府縣會議員ノ選擧ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條　投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選擧ノ日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選擧人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條　選擧人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選擧人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ヰヘシ

第十九條　投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ決スヘシ

第二十條　市町村長ハ投票錄ヲ製シ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條　投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票錄ヲ選擧會場ニ送致スヘシ

第二十二條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選擧會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條　選擧會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

前項選擧會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條　郡長ハ各投票所ヨリ選會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽藏ヲ以テ選擧立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選擧人中ヨリ選擧立會人二名乃至六名選任スヘシ

選擧立會人ハ名譽職トス

第二十五條　郡市長ハ選擧長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選擧錄ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選擧會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ選擧立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第二十六條　選擧人ハ其ノ選擧會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　投票ノ效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第二十九條　府縣會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條　選擧長ハ選擧錄ヲ製シテ選擧顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選擧人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第三十一條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ何レノ選擧ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

定期改選增員選擧補闕選擧等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選擧ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限內ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期限ヲ二十日以內トス

第三十二條　府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條　當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條　選擧人選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條　選擧ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選擧ヲ無效トス但シ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第三十六條　選擧若ハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選擧ノ際被選擧權ヲ有セサル爲當選無效ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條　府縣會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ハ其ノ被選擧權ヲ有セストスル決定確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

第三十八條　本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條　第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又市トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條　府縣會議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款　職務權限及處務規程

第四十一條　府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一　歲入出豫算ヲ定ムル事

二　決算報告ニ關スル事

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手數料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事

四　不動產ノ處分並買受讓受ニ關スル事

五　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七　財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八　其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項

第四十二條　府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條　府縣會ハ法律命令ニ依リ選擧ヲ行フヘシ

第四十四條　府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條　府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會召集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　府縣會議員ハ選擧人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條　府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選擧スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

第四十九條　府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條　府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條　府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ閉開ス

第五十二條　府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條　府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條　議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條　法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選擧ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選擧ニ付テハ府議會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ウルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ウル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條　府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第五十八條　府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ渉リ言論スルコトヲ得ス

第五十九條　會議ヲ此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ

制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騒擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騒擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條　議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條　府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隷屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條　府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　府縣參事會

第一款　組織及選擧

第六十五條　府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十六條　名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選擧同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選擧ノ時ヲ異ニスルトキハ選擧ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ職任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條　府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款　職務權限及處務規程

第六十八條　府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ム

ルトキハ府縣會ニ代テ議決スル事

三　府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事

四　府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　府縣ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條　府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選擧シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ檢査ニハ府縣知事又ハ其ノ指名シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條　第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十一條　府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

第七十二條　府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條　府縣參事會ハ議長又ハ其ノ代理者及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顛末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第七十四條　第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキハ年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

第四章　府縣行政

第一款　府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條　府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條　府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條　府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款　府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條　府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
三　府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
三　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
四　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
五　證書及公文書類ヲ保管スル事
六　法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條　府縣知事議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

第八十條　府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條　府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選擧セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條　府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ議決ニ付シ仍其議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但此場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得

第八十四條　府縣知事ハ期日ヲ定メテ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第八十五條　府縣會若ハ府縣參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

府縣參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣會若ハ府縣會參事會ニ報告スヘシ

第八十六條　府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第八十七條　府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ府縣知事ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第八十八條　官吏ノ府縣行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第八十九條　府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第九十條　府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第九十一條　委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事ヲ處辨ス

第九十二條　府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第九十三條　有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム

第九十四條　府縣會議員名譽職參事會員其他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第九十五條　有給府縣吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム

第九十六條　退隱料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十七條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章　府縣ノ財務

第一款　財產營造物及府縣稅

第九十八條　府縣ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條　府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第百條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百一條　府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百二條　府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第百三條　府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第百四條　府縣內ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百五條　三箇月以上府縣內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百六條　府縣內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖府縣內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百七條　納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ住所滯在一府縣以上ニ渉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

第百八條　一府縣以上ニ渉ル營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百九條　府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限內ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第百十條　府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第百十一條　府縣內ノ二都ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第百十二條　府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役現品ヲ府縣內一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百十三條　府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條　市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舍建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第百十五條　府縣費ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ

トヲ得

使用料手數料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條　府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條　府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款　歲入出豫算及決算

第百十八條　府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ決議ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財產表ヲ提出スヘシ

第百十九條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條　府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第百二十一條　豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百二十二條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條　決算ハ翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ若府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ內務大臣ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條　豫算調製ノ式竝費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百二十六條　府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　府縣行政ノ監督

第百二十七條　府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條　此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以內ニ之ヲ提起スヘシ但此法律中別ニ期限ヲ定メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以內ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ決定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算竝天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百二十九條　內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ

內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ竝實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百三十條　內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百三十一條　內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ選擧スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百三十二條　府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム

第百三十三條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二　使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　寄附若ハ補助ヲ爲ス事

四　不動產ノ處分ニ關スル事

五　第百十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

七　特別會計ヲ設クル事

第百三十四條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　府縣債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更スル事但シ第百十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス步合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百三十五條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百三十六條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

第七章　附則

第百三十七條　此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百三十八條　島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選擧ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百三十九條　法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司ヲ置ケル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百四十條　從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財産處分ニ關スル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十一條　明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルマテ其ノ效力ヲ有ス

第百四十二條　明治二十三年法律第三十五號府縣制ノ規定ニ依リ選擧セラレタル府縣會議員府縣參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第百四十三條　此ノ法律施行ノ際府縣會及府縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百四十四條　此ノ法律施行ノ際議員ヲ選擧スルニ必要ナル選擧人名簿ノ調製ニ限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選擧人名簿ハ翌年調製スル選擧人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

第百四十五條　此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百四十六條　明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選擧規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第百四十七條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●府縣會議員ノ選擧人名簿ニ關スル件（三十二年勅令第二百廿六號）

明治三十二年ニ於ケル府縣會議員選擧人名簿ノ調製ニ限リ府縣制第九條乃至第十二條ノ期日及期間ヲ左ノ如ク定ム

一　府縣制第九條第一項ノ府縣會議員選擧資格査定ノ期日ヲ八月一日トシ選擧人名簿送付ノ期限ヲ八月十五日トシ同條第二項ノ選擧人名簿調製期限ヲ八月二十五日トス

一　府縣制第十條ノ府縣會議員選擧資格査定ノ期日ヲ八月一日トシ選擧人名簿調製ノ期限ヲ八月二十五日トス

一　府縣制第十一條ノ直接國税届出ノ期限ヲ八月一日トス

一　府縣制第十二條第一項ノ選擧人名簿縱覽ノ期間ヲ八月二十六日ヨリ七日トシ異議ニ對スル決定ノ期限ヲ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日トシ同條第四項ノ選擧人名簿ノ確定期限ヲ九月二十日トシ同條第九項ノ府縣會議員選擧資格査定ノ期日ヲ八月一日トス

●島嶼ノ府縣會議員選擧ニ關スル件　（三十二年勅令第二百二十七號）

第一條　町村制ヲ施行セサル島嶼ハ府縣會議員ノ一選擧區トス

第二條　左ノ要件ヲ具備スル者ハ府縣會議員ノ選擧權ヲ有ス

一　帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル滿二十五歲以上ノ男子

二　一戸ヲ構ヘ二年以來町村内ニ住所ヲ有シ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村内ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國税年額二圓以上ヲ納ムル者

三　其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國税年額三圓以上ヲ納ムル者

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ選擧權ヲ有セス

一　治産ノ禁ヲ受ケタル者

一　公權停止中ノ者

一　租税滯納處分中ノ者

一　公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者

一　家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

一　公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定ニ至ルマテノ者

一　陸海軍ノ現役ニ服スル者又ハ現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者

第三條　府縣會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國税年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選擧權ヲ有ス

第四條　府縣會議員ハ他ノ町村ニ其ノ住所ヲ移スモ其ノ住所同府縣内ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

第五條　島嶼ノ府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ一戸長役場管轄區域ヲ以テ一町村ト看做ス

第六條　本令ニ定ムルモノヲ除ク外島嶼ヨリ選出スル府縣會議員ノ選擧ニ關シテハ總テ府縣制ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●島嶼ニ關スル府縣行政ノ特例ニ關スル件　（三十二年勅令第二百二十八號）

第一條　島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ分別スルコトヲ得

第二條　東京府下伊豆七島及小笠島ニ於ケル府税ノ賦課及府會議員ノ選擧ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●市部會郡部會等ノ特例ニ關スル件（三十二年勅令第二百八十五號）

第一條　從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第二條　市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス

第三條　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第四條　市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス

市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選擧ス

市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選擧シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第七條　本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第八條　市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

附則

第九條　本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設クル府縣ニ於テハ從來市部若ハ郡部ニ關スル事件及市郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ亦其ノ效力ヲ有ス

第十條　本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

●郡制（三十二年法律第六十五號）

第一章　總則

第一條　郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス

第二條　郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務竝法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ郡ノ境界モ亦自ラ變更ス町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ

本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　郡會

第一款　組織及選擧

第四條　郡會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區ハ町村ノ區域ニ依ル但シ事情ニ依リ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設クルコトヲ得

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做ス

第五條　郡會議員ノ數ハ十五人以上三十人以下トス

郡ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ增加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及各選擧區ニ於テ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　郡內ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ選擧權ヲ有ス

郡內ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

郡會議員ハ住所ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡內ニ在ルトキハ之カ爲其職ヲ失フコトナシ

郡會議員ノ選擧權及被選擧權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ揭クル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一　所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二　其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三　檢事警察官吏及收稅官吏

四　神官僧侶其ノ他諸宗教師

五　小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選擧事務ニ關係アル吏員ハ其ノ選擧區ニ於テ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス

第七條　郡會議員ハ名譽職トス

郡會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　郡會議員中闕員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選擧ヲ要スルトキハ三箇月以內ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選擧セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條　郡會議員ノ選擧ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選擧ヲ行フヘキ選擧區投票ヲ行フヘキ日時及選擧スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ新ニ選擧名簿ヲ調製シテ選擧ヲ行フ場合ニ於テハ少クトモ七十日前ニ之ヲ發スヘシ

第十條　郡會議員ノ選擧ハ町村長之ヲ管理ス但シ數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條　町村長ハ選擧期日前六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧名簿ヲ調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選擧人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ接直國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ屆出ツヘシ其ノ期限內ニ屆出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴願ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ期日前七日マテニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲スヘシ

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡內ノ各選擧區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以內ニ於テ行フ選擧ニ之ヲ適用ス其ノ郡內一部ノ選擧區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以內ニ該選擧區ニ於テノミ行フ選擧ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴願ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選擧ノ期日前七日マテニ修正スヘシ

選擧人名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ

確定名簿ニ登錄セラレサル者ハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ選擧人名簿ニ登錄セラルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選擧ノ當日選擧會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登錄セラレタル者選擧權ヲ有セサルトキハ選擧ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

異議ノ決定若ハ訴願ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無效ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿調製ノ期日縱覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第十二條　選擧會ハ町村役場若ハ選擧ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタルトキハ選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選擧會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ

選擧會ノ場所ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ三日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選擧分會ヲ設ケ其ノ選擧ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　選擧ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選擧人中ヨリ二名乃至四名ノ選擧立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選擧長トナル

選擧立會人ハ名譽職トス

第十四條　選擧人ノ外選擧會場ニ入ルコトヲ得ス但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　投票ノ拒否竝效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第十八條　郡會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條　選擧長ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選擧人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧長ニ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以內ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ何レノ選擧ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

定期改選增員選擧補闕選擧等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選擧ニ當リタルトキハ

前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ其ノ期限内ニ爲サザルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條　第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

第二十一條　郡會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ選當トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第二十二條　當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所名氏ヲ告示スヘシ

第二十三條　選擧人選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ拘ラス第二十條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長選擧ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　選擧ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選擧ヲ無效トス但シ選擧ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第二十五條　當選者ハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選擧ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選擧ノ際被選擧權ヲ有セサル爲當選無效ト確定シタルトキハ第十八條及第二十條ノ例ニ依ル

第二十六條　郡會議員ニシテ被選擧權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選擧權ニ關スル異議ハ郡參事會之ヲ決定ス

郡會ニ於テ其ノ議員中被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡長ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ郡長ニ於テ被選擧權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ亦同シ

本條郡參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會議員ハ其ノ被選擧權ヲ有セストスル決定若ハ裁決確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發

言スルノ權ヲ失ハス

第二十七條　本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキ直ニ之ヲ告示スヘシ

第二十八條　郡會議員ノ選擧ニ付テハ市町村議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

第二款　職務權限及處務規程

第二十九條　郡會ノ議定スヘキ事件左ノ如シ

一　歳入出豫算ヲ定ムル事

二　決算報告ニ關スル事

三　法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手數料及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事

四　不動産ノ處分並寶受讓受ニ關スル事

五　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

六　歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事

七　財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

八　其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項

第三十條　郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第三十一條　郡會ハ法律命令ニ依リ選擧ヲ行フヘシ

第三十二條　郡會ハ郡ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡長若ハ監督官廳ニ呈出スルコトヲ得

第三十三條　郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

郡會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ郡會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十四條　郡會議員ハ選擧人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十五條　郡會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選擧スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十六條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選擧スヘシ

第三十七條　郡長及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得

但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十八條　郡會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ五日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第三十九條　郡會ハ郡長之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日前少クトモ十日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第四十條　郡會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第四十一條　郡會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十二條　議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ郡會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第四十三條　法律命令ノ規定ニ依リ郡會ニ選擧ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十五條乃至第十七條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選擧ニ付テ郡會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ヰルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ヰル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第四十四條　郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ限リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第四十五條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第四十六條　郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十七條　會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若シ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十八條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騷ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條　議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第三十七條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第五十條　郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第五十一條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ郡會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ郡長ニ報告スヘシ

第五十二條　郡會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ郡會ノ議決ニ依リ三日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　郡參事會

第一款　組織及選擧

第五十三條　郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　郡長

二　名譽職參事會員　五名

第五十四條　名譽職參事會員ハ郡會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選擧スヘシ

郡會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選擧スヘシ

名譽職參事會員中闕員アルトキハ郡長ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選擧同時ナルトキハ投標數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選擧ノ時ヲ異ニスルトキニ選擧ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ郡會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第五十五條　郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス郡長故障アルトキハ出席會員中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二款　職務權限及處務規程

第五十六條　郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

一　郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二　郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ郡會ニ代テ議決スル事

三　郡長ヨリ提出スル議案ニ付郡長ニ對シ意見ヲ述フル事

四　郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事

五　郡費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

六　郡ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事項

七　其ノ他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事項

第五十七條　郡參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選擧シ之ヲシテ郡ニ係ル出納ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ檢査ニハ郡長又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第五十八條　第三十二條第三十三條第三十七條及第五十條ノ規定ハ郡參事會ニ之ヲ準用ス

第五十九條　郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

郡參事會ノ會期ハ郡長之ヲ定ム

第六十條　郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第六十一條　郡參事會ハ議長及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十六條第二ノ議決ヲ爲ストキハ郡長ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

郡參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顚末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第六十二條　第四十二條ノ規定ハ郡參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第五十四條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

第四章　郡行政

第一款　郡吏員ノ組織及任免

第六十三條　郡ニ有給ノ郡吏員ヲ置クコトヲ得其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項ノ郡吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第六十四條　郡ニ郡出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ郡長之ヲ命ス

第六十五條　郡ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第二款　郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第六十六條　郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス

郡長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　郡費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二　郡會及郡參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三　財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五　證書及公文書類ヲ保管スル事

六　法律命令又ハ郡會若ハ郡參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料郡費及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

七　其ノ他法律命令ニ依リ郡長ノ職權ニ屬スル事項

第六十七條　郡長ハ議案ヲ郡會ニ提出スル前之ヲ郡參事會ノ審査ニ付シ若郡參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ郡參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

第六十八條　郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

郡長ハ郡ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第六十九條　郡會若ハ郡參事會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ參リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

郡會若ハ郡參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮

ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十條　郡會若ハ郡參事會ニ於テ郡ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十一條　郡長ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十二條　郡會若ハ郡參事會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第四十二條第六十二條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

郡會若ハ郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ郡會ニ於テ其ノ招集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

郡參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル郡長ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ郡會若ハ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十三條　郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ郡長ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ郡參事會ニ報告スヘシ

第七十四條　郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ郡長ニ於テ專決處分スルコトヲ得

第七十五條　官吏ノ郡行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第七十六條　郡出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第七十七條　郡吏員ハ郡長ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第七十八條　委員ハ郡長ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他郡行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條　郡ノ事務ニ關スル處務規程ハ郡長之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第八十條　有給郡吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

第八十一條　郡會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第八十二條　有給郡吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム若許可スヘカラストト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第八十三條　退隱料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決

ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十四條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ郡ノ負擔トス

第五章　郡ノ財務

第一款　財産營造物及郡費

第八十五條　郡ハ積立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第八十六條　郡ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徴收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徴收スルコトヲ得

第八十七條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

過料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ郡長之レヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣知事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條　郡ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條　郡ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノヽ外之ヲ郡内各町村ニ分賦スヘシ

第九十條　郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ直接國税府縣税ノ徴收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第九十一條　郡内ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條　郡ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ郡内一部ノ町村ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役又ハ現品ノ賦課セラレタル町村ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金錢ヲ以テ之ニ代ツルコトヲ得

第九十三條　使用料手數料ノ徴收ニ關シ告知ヲ受ケタル者其ノ告知ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ告知書ノ交付後三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

郡費ノ分賦ニ關シ町村ニ於テ其ノ分賦ニ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ郡長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服スル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九十四條　使用料手數料過料其ノ他郡ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ國税滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徴收金ハ府縣ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴還付及時效ニ付テハ國税ノ例

ニ依ル

本條第一項ノ場合ニ於テ町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ郡長ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得、

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條　郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款　歳入出豫算及決算

第九十六條　郡長ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ヘシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財産表ヲ提出スヘシ

第九十七條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　郡費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第九十九條　豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百一條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二條　決算ハ翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ竝其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百三條　豫算調製ノ式竝費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第百四條　郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スルハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　郡組合

第百五條　特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ

第百六條　郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法竝其ノ費用ノ支辨方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

第百七條　郡組合ハ法人トス

郡組合ニ關シテハ本章中規定スルモノヲ除ク外此ノ法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定

ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七章　郡行政ノ監督

第百八條　郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百九條　此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁定書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百十條　監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百十一條　監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百十二條　内務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選擧スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第二項ノ規定ニ拘ラス府縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條　郡吏員ノ服務紀律ハ内務大臣之ヲ定ム

第百十四條　左ニ掲クル事件ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　學藝美術又ハ歴史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二　使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百十五條　郡債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百十六條　左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二　寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三　不動産ノ處分ニ關スル事

四　第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

五　繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

六　特別會計ヲ設クル事

第百十七條　郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百十八條　郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ其ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百十九條　府縣知事ハ郡吏員ニ對シ徵戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ徵戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ徵戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ俸給料ヲ支給セサルコトヲ得

徵戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選擧セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八章　附則

第百二十條　此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第百二十一條　郡内總町村ニ屬スル事業竝其ノ財産營造物小學校ヲ除ク外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第百二十二條　此ノ法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ渉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百二十三條　島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第百二十四條　明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選擧セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

第百二十五條　此ノ法律施行ノ際郡會及郡參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間郡長之ヲ行フ

第百二十六條　此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百二十七條　此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十八條　明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ地ニ於テハ其ノ効力ヲ失フ

第百二十九條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●市制町村制　（二十一年法律第一號）

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ增進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ都市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ

公布セシム

市制

第一章　總則

第一欵　市及其區域

第一條　此法律ハ市街地ニシテ郡ノ區域ニ屬セス別ニ市ト爲スノ地ニ施行スルモノトス

第二條　市ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡市ノ公共事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條　凡市ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ從來ノ區ヲ存ス其區ハ財產及營造物ニ關スル事務其他法律命令ニ依リ區ニ屬スル事務ヲ處理スルモノトス（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

第四條　市ノ境界ヲ變更シ又ハ町村ヲ市ニ合併シ及市ノ區域ヲ分割スルコトアルトキハ町村制第四條ヲ適用ス

東京市、京都市、大阪市ノ區ヲ廢置分合シ又ハ其境界ヲ變更スルコトアルトキ亦同シ（同上）

第五條　市ノ境界ニ關スル爭論ハ府縣參事會之ヲ裁決ス其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二欵　市住民及其權利義務

第六條　凡市內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其市住民トス

凡市住民タル者ハ此法律ニ從ヒ公共ノ營造物竝市有財產ヲ共有スルノ權利ヲ有シ及市ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條　凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來一市ノ住民トナリ（二）其市ノ負擔ヲ分任シ及（三）其市內ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其市公民トス其公民ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ市會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二箇年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五年以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且治產ノ禁ヲ受サル者ヲ云フ

第八條　凡市公民ハ市ノ選擧ニ與參シ市ノ名譽職ニ選擧セラルヽノ權利アリ又其ノ名譽職ヲ擔任スルハ市公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二　營業ノ爲ニ常ニ其市內ニ居ルコトヲ得サル者

三　年齡滿六十歲以上ノ者

四　官職ノ爲メニ市ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五　四年間無給ニシテ市吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間市會議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者

六　其他市會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス

又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ市會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其市公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔スヘキ市費ノ八分一乃至四分一ヲ增課スルコトヲ得

前項市會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　市公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス（二十八年法律第六號ヲ以テ各項トモ改正）

市公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

市公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三條ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル市吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得

第三款　市條例

第十條　市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ニ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章　市會

第一款　組織及選擧

第十一條　市會議員ハ其市ノ選擧人其被選擧權アル者ヨリ之ヲ選擧ス其定員ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人トシ人口五萬以上ノ市ニ於テハ三十六人トス

人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口五萬ヲ加フル毎ニ人口二十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ議員三人ヲ增シ六十人ヲ定限トス

議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得但定限ヲ越ユルコトヲ得ス

第十二條　市公民（第七條）ハ總テ選擧權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルヽ者（第八條第三項第九條第二項）及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス（二十八年法律第六號ヲ以テ條中ヲ改正ス）

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選擧權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルヽ者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條　選擧人ハ分テ三級ト爲ス

選擧人中直接市稅ノ納額最多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ一級ト

ス

一級選擧人ノ外直接市稅ノ多キ者ヲ合セテ選擧人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ二級トシ餘ノ選擧人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其市ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選擧人每級各別ニ限員ノ三分一ヲ選擧ス其被選擧人ハ同級內ノ者ニ限ラズ三級ニ通シテ選擧セラルヽコトヲ得

第十四條　區域廣濶又ハ人口稠密ナル市ニ於テハ市條例ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級選擧ノ爲メ之ヲ設クルモ妨ケナシ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選擧區トス（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

選擧區ノ數及其區域竝各選擧區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ選擧人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ

選擧人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其市內ニ住居ナキ者ハ課稅ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依ヲ之ヲ定ム若シ數選擧區ニ亘リ納稅スル者ハ課稅ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム可シ

選擧區ヲ設クルトキハ其選擧區ニ於テ選擧人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選擧人ハ其選擧區內ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條　選擧權ヲ有スル市公民（第十二條第一項）ハ總テ被選擧權ヲ有ス

左ニ揭クル者ハ市會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣ノ官吏

二　有給ノ市吏員

三　檢察官及警察官吏

四　神官僧侶及其他宗教師

五　小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

「代言人」ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業トナス者ハ議員ニ選擧セラルヽコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルヲ得ス其同時ニ選擧セランタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選擧セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

市參事會員トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者市參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルヽコトヲ得

第十七條　議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選擧ヲ行フ可シ若シ定員三分

ノ一以上闕員アルトキ又ハ市會、市參事會若クハ府縣知事ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選擧ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選擧トモ前任者ノ選擧セラレタル選擧等級及選擧區ニ從テ之カ選擧ヲ行フヘシ

第十八條　市長ハ選擧ヲ行フ毎ニ其選擧前六十日ヲ限リ選擧原簿ヲ製シ各選擧人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選擧人名簿ヲ製スヘシ但選擧區ヲ設クルトキハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ製スヘシ

選擧人名簿ハ七日間市役所又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限內ニ之ヲ市長ニ申立ツヘシ市長ハ市會ノ裁決（第三十五條第一項）ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選擧前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選擧ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選擧ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選擧ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選擧ヲ執行スルトキハ市長ハ選擧ノ場所日時ヲ定メ及選擧ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分チ選擧前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選擧ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ二級ノ選擧ヲ行ヒ次ニ一級ノ選擧ヲ行フ可シ

第二十條　選擧掛ハ名譽職トシ市長ニ於テ臨時ニ選擧人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選擧會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選擧區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選擧掛ヲ設ク可シ

第二十一條　選擧開會中ハ選擧人ノ外何人タリトモ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　選擧ハ投票ヲ以テ行フ投票ニハ被選擧人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選擧人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選擧人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス

選擧人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選擧人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選擧ス可キ定數ニ過キル又ハ不足アルモ其投票ヲ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選擧人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並效力ニ關スル事項ハ選擧掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選擧ハ選擧人自ラ之ヲ行フヘシ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選擧權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選擧ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨

立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選擧掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十五條　議員ノ選擧ハ有効投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ（第十七條）投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十六條　選擧掛ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記錄シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選擧錄ニ附屬シ選擧ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條　選擧終リタル後選擧掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選擧ニ當リタルトキハ同期限內何レノ選擧ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選擧ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲スヘシ

第二十八條　選擧人選擧ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選擧ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得（第三十五條第一項）

市長ハ選擧ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選擧ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選擧ノ規定違背スルコトアルトキハ其選擧ヲ取消又被選擧人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選擧ヲ行ハシム可シ

第二十九條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二款　職務權限及處務規程

第三十條　市會ハ其市ヲ代表シ法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラルヽ事件ヲ議決スルモノトス

第三十一條　市會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一　市條例及規則ヲ設ケ並改正スル事

二　市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ揭クル事務ハ此限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、市稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六　市有不動產ノ寶買交換讓受讓渡並寶入書入ヲ爲ス事

七　基本財產ノ處分ニ關スル事

八　歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九　市有ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　市吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一　市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十二條　市會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選擧ヲ行フ可シ

第三十三條　市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理、議決ノ施行竝收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

市會ハ市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十四條　市會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十五條　市住民及公民タル權利ノ有無、選擧權及被選擧權ノ有無、選擧人ノ名簿ノ正否竝其等級ノ當否、代理ヲ以テ執行スル選擧權(第十二條第二項)及市會議員選擧ノ効力(第二十八條)ニ關スル訴願ハ市會之ヲ裁決ス

市會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ市長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選擧ヲ爲スコトヲ得ス

第三十六條　凡議員タル者ハ選擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十七條　市會ハ毎暦年ノ初メ一周年ヲ限リ議長及其代理者各一名ヲ互選ス

第三十八條　會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ市會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第三十九條　市參事會員ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十條　市會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ市長若クハ市參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集竝會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タル可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市參事會員ヲ市會ノ會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條　市會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス(二十八年法律第六號ヲ以テ條中改正)

第四十二條　市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條　市會ニ於テ市吏員ノ選擧ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選擧ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條　市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選擧ノ事ヲ總理シ開會閉會竝延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條　市會ハ書記ヲシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選擧ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ

市會ハ議事錄ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告スヘシ

市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條　市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三章　市行政

第一欵　市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長　一名

二　助役　東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三　名譽職參事會員　東京ハ十二名京都大阪ハ各九名其他ハ六名

助役及名譽職參事會員ハ市條例ヲ以テ其定員ヲ增減スルコトヲ得

第五十條　市長ハ有給吏員トス其任期ハ六年トシ內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得ザルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市吏ヲ以テ官吏ヲ派遣シ市町ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條　助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選擧ス其選擧ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ

但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決スヘシ

第五十二條　助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス

助役ノ選擧ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選擧ヲ爲ス可シ再選擧ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選擧ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市吏ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條　市長及助役ハ其市公民タル者ニ限ラス但其任ヲ受クルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十四條　名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム

初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルヽコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選擧ヲ爲ス可シ

第五十五條　市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

同條第四項ニ揭載スル者ハ名譽職參事會員ニ選擧セラルヽコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス

市長及助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クル權ヲ失フモノトス

第五十六條　市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條　名譽職參事會員ノ選擧ニ付テハ市參事會自ラ其効力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

第五十八條　市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス

收入役ハ參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十二條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ハ身元保證金ヲ出スヘシ

第五十九條　市ニ書記其他必要ノ附屬員竝使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ市會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條　凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス但東京京都大阪ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會（第百十三條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス但東京京都大阪ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大坂ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員竝使丁ヲ置クコトヲ得

東京市、京都市、大坂市ハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

第六十一條　市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ市參事會員又ハ市會議員ヲ以テ之ニ充テ又ハ市參事會員及市會議員ヲ以テ之ヲ組織シ又ハ會員議員ト市公民中選擧權ヲ有スル者トヲ以テ之ヲ組織シ市參事會員一名ヲ以テ委員長トス

委員中市會議員ヨリ出ツル者ハ市會之ヲ選擧シ選擧權ヲ有スル公民ヨリ出ツル者ハ市參事會之ヲ選擧シ其他ノ委員ハ市長之ヲ選任ス

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十二條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル費費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條　市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルヽコトヲ得

市吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得